

別記様式第2号（その1の1）

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄					備考		
計画の区分	学部の学科の設置							
フリガナ設置者	がっくおびん かんせい'いこく'が'が'く 学校法人 関西外国語大学							
フリガナ大学の名称	かんせい'いこく'が'が'く 関西外国語大学 (Kansai Gaidai University)							
大学本部の位置	大阪府枚方市中宮東之町16番1号							
大学の目的	外国語を通じて国際文化一般を教授研究し国際的活動に必要な高い教養と人格の向上を図ることを目的とする。							
新設学部等の目的	<p>高度なコミュニケーションを可能とする本格的英語力と、社会科学の学修を通じて得る知識・論理的思考力・公正な視点及び国際理解力と多文化共生力を基盤とし、併せて幅広い教養や豊かな人格形成等からなる英語キャリア基礎力を養成することにより、多文化共生社会においてリーダーシップを発揮する高度国際職業人につながる人材を養成する。（英語キャリア学科）</p> <p>教育に対する強い情熱・使命感を持ち、小学校教育に関する全領域にわたる優れた実践の指導能力を身につけ、コミュニケーションを可能とする英語力と、国際理解力と多文化共生力を有した高度国際職業人につながる人材を養成する。（英語キャリア学科小学校教員コース）</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	英語キャリア学部 [College of International Professional Development]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	大阪府枚方市中宮東之町16番1号
	英語キャリア学科 [School of International Professional Development]	4	120	0	480	学士(英語キャリア)	平成25年4月 第1年次	
	英語キャリア学科小学校教員コース [School of International Professional Development, Elementary Education Program]	4	30	0	120	学士(教育)	平成25年4月 第1年次	
計		150	0	600				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<p>英語キャリア学部 英語キャリア学科（廃止）（△120） ※平成25年4月学生募集停止</p> <p>外国語学部 英米語学科〔定員減〕（△30）→ 英語キャリア学部英語キャリア学科小学校教員コースへ （外国語学部英米語学科） 〔入学定員 1,200名 → 1,170名〕 〔3年次編入学定員 300名 → 300名〕 〔収容定員 5,400名 → 5,280名〕</p> <p>関西外国語大学短期大学部〔定員減〕 英米語学科〔定員減〕（△100）（平成24年12月届出予定） 〔入学定員 900名 → 800名〕 〔収容定員 1,800名 → 1,600名〕</p>							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	英語キャリア学科	講義	演習	実験・実習	計	学士（英語キャリア）124単位 学士（教育）130単位		
		132科目	48科目	51科目	231科目			

教員等の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
新設分	英語キャリア学部 英語キャリア学科		15 (15)	12 (12)	2 (2)	0 (0)	29 (29)	0 (0)	30 (19)
	計		15 (15)	12 (12)	2 (2)	0 (0)	29 (29)	0 (0)	30 (19)
既設分	外国語学部 英米語学科		45 (45)	50 (50)	58 (58)	0 (0)	153 (153)	0 (0)	144 (144)
	スペイン語学科		19 (19)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	28 (28)	0 (0)	23 (23)
	国際言語学部 国際言語コミュニケーション学科		32 (32)	20 (20)	23 (23)	0 (0)	75 (75)	0 (0)	44 (44)
	計		96 (96)	74 (74)	86 (86)	0 (0)	256 (256)	0 (0)	211 (211)
合計			111 (111)	86 (86)	88 (88)	0 (0)	285 (285)	0 (0)	241 (230)
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		120人 (120)		14人 (14)		134人 (134)		
	技術職員		26 (26)		0 (0)		26 (26)		
	図書館専門職員		33 (33)		5 (5)		38 (38)		
	その他の職員		148 (148)		0 (0)		148 (148)		
	計		327 (327)		19 (19)		346 (346)		
校地等	区分	専用	共用		共用する他の学校等の専用		計		
	校舎敷地	0 m <sup>2</sup>	165,110.86 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		165,110.86 m <sup>2</sup>		
	運動場用地	0 m <sup>2</sup>	58,799.53 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		58,799.53 m <sup>2</sup>		
	小計	0 m <sup>2</sup>	223,910.39 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		223,910.39 m <sup>2</sup>		
	その他	0 m <sup>2</sup>	10,502.19 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		10,502.19 m <sup>2</sup>		
	合計	0 m <sup>2</sup>	234,412.58 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		234,412.58 m <sup>2</sup>		
校舎	専用	共用		共用する他の学校等の専用		計			
	21,216.77 m <sup>2</sup> ( 21,216.77 m <sup>2</sup> )	57,509.46 m <sup>2</sup> ( 44,930.45 m <sup>2</sup> )		5,990.18 m <sup>2</sup> ( 5,990.18 m <sup>2</sup> )		84,716.41 m <sup>2</sup> ( 72,137.40 m <sup>2</sup> )			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設			
	105室	80室	10室	9室 (補助職員 0人)		14室 (補助職員 0人)			
専任教員研究室	新設学部等の名称			室数					
	英語キャリア学部 英語キャリア学科			29室					
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	英語キャリア学部 英語キャリア学科	167,832[94,803] (165,767[93,751])	410 [250] ( 374 [240])	7,100 [7,000] ( 3,551 [3,498])	15,560 (12,507)	259 (222)	9 (0)		
	計	167,832[94,803] (165,767[93,751])	410 [250] ( 371 [239])	7,100 [7,000] (2,610 [2,559])	15,560 (12,507)	259 (222)	9 (0)		
図書館	面積	閲覧座席数		収納可能冊数					
	12,850 m <sup>2</sup>	1,230席		942,000冊					
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	14,453.63 m <sup>2</sup>	テニスコート		アーチェリー練習場					
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	教員1人当たり研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	—千円	—千円	
	共同研究費等		2,500千円	2,500千円	2,500千円	2,500千円	—千円	—千円	
	図書購入費	7,033千円	1,186千円	1,186千円	1,186千円	1,086千円	—千円	—千円	
	設備購入費	13,969千円	8,577千円	0千円	0千円	0千円	—千円	—千円	
	学生1人当たり納付金		第1年次 1,270千円	第2年次 1,020千円	第3年次 1,020千円	第4年次 1,020千円	第5年次 —千円	第6年次 —千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金、雑収入等							

既設大学等の状況	大学の名称	関西外国語大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	英語キャリア学部 英語キャリア学科	4	120	—	480	学士（英語キャリア）	1.02	平成23年度	大阪府枚方市中宮東之町16番1号
	外国語学科 英米語学科	4	1,200	300	5,400	学士（英語学）	1.14	昭和41年度	
スペイン語学科	4	250	25	1,050	学士（スペイン語学）	1.15	昭和41年度		
国際言語学部 国際言語コミュニケーション学科	4	700	100	3,000	学士（国際言語コミュニケーション学）	1.10	平成8年度	大阪府枚方市穂谷1丁目10番1号	
既設大学等の状況	大学の名称	関西外国語大学短期大学部							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
英米語学科	2	900	—	1,800	短期大学士（英語学）	1.05	昭和28年度	大阪府枚方市中宮東之町16番1号	
附属施設の概要	名称 目的	国際文化研究所 文化人類学に関する調査研究、特に各国の文化の比較研究を行い、世界諸民族の文化の友好親善に貢献することを目的とする。							
	所在地 設置年月 規模等	大阪府枚方市中宮東之町16番1号 昭和47年4月 インターナショナル・コミュニケーション・センターの4階の一部を使用							
	名称 目的	人権教育思想研究所 人権問題及び人権教育思想について研究調査し、基本的人権の確立に努めることを目的とする。							
	所在地 設置年月 規模等	大阪府枚方市中宮東之町16番1号 平成6年4月 インターナショナル・コミュニケーション・センターの4階の一部を使用							
	名称 目的	教職教育センター（旧 教職英語教育センター 平成24年8月名称変更） 本学「教職課程」履修者を対象にした教員養成に係る支援活動および小・中・高等学校等との教育研究連携事業を通じた教育現場での諸課題の教育研究等により、幅広く学内外の教育政策・事業全般の推進に貢献することを目的とする。							
所在地 設置年月 規模等	大阪府枚方市中宮東之町16番1号 平成15年9月 インターナショナル・コミュニケーション・センターの1階の一部を使用								
名称 目的	アジア・太平洋交流センター アジア及びアメリカを含めた広義のアジア太平洋地域を中心とした大学・研究機関との交流を通じて、教育・研究活動を推進することを目的とする。								
所在地 設置年月 規模等	大阪府枚方市穂谷1丁目10番1号 平成22年4月 B教室1階の一部を使用								
名称 目的	イベロアメリカ研究センター スペイン、ポルトガルならびにラテンアメリカを対象とする研究を行い、実践的な外国語能力と国際社会に通用する知識と情報を学内外に供することを目的とする。								
所在地 設置年月 規模等	大阪府枚方市中宮東之町16番1号 平成22年4月 インターナショナル・コミュニケーション・センターの4階の一部を使用								

## 学校法人 関西外国語大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成24年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	→	平成25年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>関西外国語大学</b>					<b>関西外国語大学</b>				
		3年次					3年次		
<b>英語キャリア学部</b>					<b>英語キャリア学部</b>	0	—	0	平成25年4月学生募集停止
英語キャリア学科	120	—	480		<b>英語キャリア学科</b>	<u>150</u>	—	<u>600</u>	学科の設置(設置届出)
					英語キャリア学科	120	—	480	
					英語キャリア学科	—	—	—	
					小学校教員コース	30	—	120	
		3年次							
<b>外国語学部</b>					<b>外国語学部</b>				
英米語学科	1,200	300	5,400		英米語学科	<u>1,170</u>	<u>300</u>	<u>5,280</u>	定員変更
		3年次							
<b>外国語学部</b>					<b>外国語学部</b>				
スペイン語学科	250	25	1,050		スペイン語学科	250	25	1,050	
		3年次							
<b>国際言語学部</b>					<b>国際言語学部</b>				
国際言語コミュニケーション学科	700	100	3,000		国際言語コミュニケーション学科	700	100	3,000	
<b>関西外国語大学大学院</b>					<b>関西外国語大学大学院</b>				
<b>外国語学研究科</b>					<b>外国語学研究科</b>				
英語学専攻(M)	15	—	30		英語学専攻(M)	15	—	30	
言語文化専攻(M)	20	—	40		言語文化専攻(M)	20	—	40	
英語学専攻(D)	3	—	9		英語学専攻(D)	3	—	9	
言語文化専攻(D)	3	—	9		言語文化専攻(D)	3	—	9	
<b>関西外国語大学短期大学部</b>					<b>関西外国語大学短期大学部</b>				
英米語学科	900		1,800		英米語学科	<u>800</u>		<u>1,600</u>	定員変更 (平成24年12月に届出申請の予定)

教育課程等の概要															
(英語キャリア学部英語キャリア学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	LgD:Reading & Writing I (Global Issues I)	1前	2				○		1	1	1			兼1	
	LgD:Reading & Writing II (Global Issues II)	1後	2				○		1	1	1			兼1	
	LgD:Speaking & Listening I (Groups within Societies)	1前	2				○			2				兼2	
	LgD:Speaking & Listening II (Conflicts within Societies)	1後	2				○			2				兼2	
	LgD:Argument & Persuasion I (Media Influences)	2前	2				○		1	1	1			兼1	
	LgD:Argument & Persuasion II (Presentations)	2後	2				○		1	1	1			兼1	
	LgD:Academic English(Cultural Perspectives)	2前	2				○			2					
	LgD:Analytical Thinking(Cultural Reflections)	2後	2				○			2					
	LgD:Introduction to Academic English	1前		2			○								兼1
	LgD:Reading Comprehension	2後		2			○								兼1
	アカデミック・リーディングⅠ	1前		2			○		1	4					
	アカデミック・リーディングⅡ	1後		2			○		1	4					
	アカデミック・リーディングⅢ	2前		2			○		2	4					
	アカデミック・リーディングⅣ	2後		2			○		2	4					
	ゼミナールⅠ	2前		2			○		2	4					
	ゼミナールⅡ	2後		2			○		2	4					
	言語基礎論	1前		4			○		1						兼1
	キャリア・デザイン	1後		2				○				1			
	キャリア形成A	2前		2				○							兼1
	キャリア形成B	2後		2				○							兼1
	英語ビジネス・レビューA	1後		4				○							兼1
	英語ビジネス・レビューB	1後		4				○							兼1
	英語ビジネス・レビューC	2後		4				○							兼1
	英語ビジネス・レビューD	2後		4				○							兼1
	英語ビジネス・コミュニケーション	3・4前		4				○			1				
	英語ビジネス・プレゼンテーション	3・4後		2				○			1				
	英語学複合研究	4後		4				○		1					
	英語教育学複合研究	4後		4				○		1					
	英語文学複合研究	4後		4				○		1					
	グローバル・ビジネス複合研究	4後		4				○			2				
	国際教養複合研究	4後		4				○		1	1				
	英語キャリア卒業研究Ⅰ	4前		2				○		6	6	1			
	英語キャリア卒業研究Ⅱ	4後		2				○		6	6	1			
小計 (33科目)		—	16	72	0		—		7	9	2	0	0	兼8	
専門研究科目	英語学概論	1後	4				○		1						
	現代英文法	1後		4			○		1						
	英語学研究A	2前		4			○		1						
	英語学研究B	2後		4			○							兼1	
	英語教育学	2後		4			○		1						
	応用言語学	3・4前		4			○		1						
	英語科教育法Ⅰ	2前		4			○							兼1	
	英語科教育法Ⅱ	2後		4			○							兼1	
	英語科教育法	3・4前		4			○		1						
	英語文学概論	2後		4			○		1						
	英語文学作品研究	3・4前		4			○		1						
	英語演習A	1前		4				○						兼1	
	英語演習B	1後		4				○						兼1	
	日本語学概論	2前		4				○						兼1	
日本語学Ⅰ	2前		4				○						兼1		
日本語学Ⅱ	2後		4				○						兼1		
日本語教育法Ⅰ	3・4前		4				○						兼2 ねこパス		
日本語教育法Ⅱ	3・4後		4				○						兼2 ねこパス		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	日本学A	2前		4		○									兼1
	日本学B	2後		4		○									兼1
	ミクロ経済学	1後		4		○			1	1					
	マクロ経済学	2前		4		○			1	1					
	イントロダクション経済学	1前		2		○									兼2 ねこバス
	経営学概論	1前		4		○				1					
	会計学Ⅰ	1後		4		○				1					
	会計学Ⅱ	2前		4		○				1					
	ビジネス統計	1後		2		○									兼1
	ビジネス数学	1前		2		○				1					
	金融論	2後		4		○			1						
	マーケティング論	2前		4		○				1					
	ファイナンス	3・4前		4		○			1						
	国際経済学	3・4後		4		○									兼1
	国際経営論	3・4前		4		○									兼1
	流通システム論	3・4後		4		○				1					
	国際関係論Ⅰ	1前		4		○				1					兼1
	国際関係論Ⅱ	1後		4		○				1					兼1
	情報システム概論	1前		2		○									兼1
	地域研究A(欧米)	2前		4		○			1						
	地域研究B(アジア)	2休		4		○									兼1 集中
	異文化と歴史A	1後		4		○									兼1
	異文化と歴史B	1前		4		○									兼1
	国際開発論	2後		4		○									兼1
	社会学	2前		4		○				1					
	比較社会論	2後		4		○				1					
	国際機構論	3・4前		4		○									兼1
	比較文化研究	3・4後		4		○									兼1
	国際労働関係法	3・4前		4		○			1						
	航空概論	3・4後		4		○			1						
	エアポート論	3・4前		4		○									兼1
	ホテル学	3・4後		4		○									兼1
	ホスピタリティ	3・4前		4		○			1						
	ツーリズム	3・4後		4		○			1						
	海外事情研究A	1・2・3・4		4											※1
	海外事情研究B	1・2・3・4		4											※1
	海外事情研究C	1・2・3・4		4											※1
	海外事情研究D	1・2・3・4		4											※1
	海外事情研究E	1・2・3・4		4											※1
	異文化マネジメントA	2・3・4		4											※1
	異文化マネジメントB	2・3・4		4											※1
	異文化マネジメントC	2・3・4		4											※1
	異文化マネジメントD	2・3・4		4											※1
	異文化マネジメントE	2・3・4		4											※1
	英語学研究C	3・4		4											※1
英語学研究D	3・4		4											※1	
英語学研究E	3・4		4											※1	
英語学研究F	3・4		4											※1	
英語学研究G	3・4		4											※1	
英語学研究H	3・4		2											※1	
英語学研究I	3・4		2											※1	
英語教育学研究A	3・4		4											※1	
英語教育学研究B	3・4		4											※1	
英語教育学研究C	3・4		4											※1	
英語教育学研究D	3・4		4											※1	
英語教育学研究E	3・4		4											※1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門研究科	英語文学研究A	3・4		4				○							※1
	英語文学研究B	3・4		4				○							※1
	英語文学研究C	3・4		4				○							※1
	英語文学研究D	3・4		4				○							※1
	英語文学研究E	3・4		4				○							※1
	グローバル・ビジネス研究A	3・4		4				○							※1
	グローバル・ビジネス研究B	3・4		4				○							※1
	グローバル・ビジネス研究C	3・4		4				○							※1
	グローバル・ビジネス研究D	3・4		4				○							※1
	グローバル・ビジネス研究E	3・4		4				○							※1
	国際教養研究A	3・4		4				○							※1
	国際教養研究B	3・4		4				○							※1
	国際教養研究C	3・4		4				○							※1
	国際教養研究D	3・4		4				○							※1
	国際教養研究E	3・4		4				○							※1
	小計 (89科目)	—	4	340	0			—		7	5	0	0	0	兼25
専門教育科目	教職概論(小)	1前		2			○			1					
	教育基礎論(小)	1前		2			○								兼1
	教育心理学(小)	1前		2			○				1				
	教育制度概論(小)	2前		2			○								兼1
	教育課程の意義と編成(小)	2前		1			○								兼1
	道徳教育の理論と実践(小)	1後		2			○			1					
	特別活動の理論と実践(小)	3前		2			○								兼1
	教育方法の理論と実践(小)	3前		2			○			1	1				ホニバス
	生徒指導論(小)	3前		2			○			1					
	教育相談(小)	2後		2			○				1				
	教育実習(小)	3後		5					○	1	1				
	教職実践演習(小)	4後		2				○		1	1				
	国語	1前		2			○			1					
	社会	2前		2			○			1					
	算数	1前		2			○			1					
	理科	2前		2			○			1					
	生活	2前		2			○				1				
	音楽	2前		2			○			1					
	音楽実技演習A	3前		2				○		1					
	音楽実技演習B	3後		2				○		1					
	図画工作	1前		2			○								兼1
	家庭	3前		2			○								兼1
	体育	3前		2			○				1				
	国語科指導法	1後		2			○								兼1
	社会科指導法	2後		2			○			1					
	算数科指導法	1後		2			○								兼2
	理科指導法	2後		2			○								兼1
	生活科指導法	2後		2			○				1				
	音楽科指導法	2後		2			○			1					兼1
	図画工作科指導法	1後		2			○								兼1
	家庭科指導法	3後		2			○								兼1
	体育科指導法	3後		2			○								兼1
	学校教育基礎論	1後		2			○				1				
グローバル教育論	1後		2			○								兼1	
小学校英語教育実践	3前		2			○			1						
安全・安心な学校生活の形成	2前		2			○			1						
渡日外国人児童教育	3後		2			○			1						
教育史	1前		2			○								兼1	
教育哲学	1後		2			○			1						
教育方法学	2後		2			○				1					
教育行政学	2後		2			○			1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 教育科目	学校・学級マネジメント	2前		2		○			1						
	教育法規	2後		2		○			1						
	道徳教育実践研究	3前		2		○			1						
	教育心理学研究	3後		2		○				1					
	教育学演習A	3前		2			○			1					
	教育学演習B	3後		2			○			1					
	教育学演習C	3前		2			○		1						
	教育学演習D	3後		2			○		1						
	小計(49科目)	—	0	100	0	—	—	—	8	3	0	0	0	0	兼11
教養 教育科目	スペイン語	2前		4			○								兼1
	中国語	2前		4			○								兼1
	フランス語	2前		4			○								兼1
	イタリア語	2前		4			○								兼1
	ハングル	2前		4			○								兼1
	哲学	3・4後		4		○									兼1
	心理学	3・4前		4		○									兼1
	芸術史	3・4前		4		○									兼1
	人権問題論	3・4前		4		○									兼1
	憲法	3・4後		4		○									兼1
	環境科学	3・4前		4		○									兼1
	スポーツ健康科学	3・4後		2				○							兼1
	情報機器実習	1通		2				○							兼1
	総合科目A	3・4前		4		○									兼1
	総合科目B	3・4後		4		○									兼1
	総合科目C	3・4前		4		○									兼1
	総合科目D	3・4後		4		○									兼1
	総合実習A(インターンシップ)	2・3・4		2				○	1						※2
	総合実習B(インターンシップ)	2・3・4		2				○	1						※2
	総合実習C(ボランティア)	2・3・4		2				○							※2
	総合実習D(ボランティア)	2・3・4		2				○							※2
	海外フィールド・スタディA	2・3・4		4				○							※1
	海外フィールド・スタディB	2・3・4		4				○							※1
小計(23科目)	—	0	80	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	兼16	
教職 に関する 科目	教職概論	1前・後			2	○			2						
	教育基礎論	1前・後・休			2	○									兼3 集中1
	教育心理学	1前・後			2	○			1						兼1
	教育制度概論	2前・後			2	○			1						兼2
	英語科教育法Ⅰ	3前・後			4	○									兼3
	英語科教育法Ⅱ	3後			4	○									兼1
	道徳教育の理論と実践	2前・後			2	○			1						兼1
	特別活動の理論と実践	3前・後			2	○									兼3
	教育方法の理論と実践	3前・後			4	○			1						兼3
	生徒指導論	3前・後・休			2	○			1						兼2 集中1
	教育相談	2前・後			2	○				1					
	教育実習Ⅰ	4通			5			○							兼1
	教育実習Ⅱ	4通			3			○							兼1
	教職実践演習(中・高)	4後			2		○		2						兼3
小計(14科目)	—	0	0	38	—	—	—	4	1	0	0	0	0	兼13	
日に 本語 教員 養成 に関する 科目	日本語教育実習演習	4後			2		○								兼1
	日本語教育実習	4後			2			○							兼1
	小計(2科目)	—	0	0	4	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼2
関 する 科目 に 関 する 科目	生涯学習概論	1前・後			2	○									兼1
	図書館概論	1前・後			2	○									兼1
	図書館制度・経営論	2前・後			2	○									兼1
	図書館情報技術論	2前・後			2	○									兼1
	図書館サービス概論	1前・後			2	○									兼2
	情報サービス論	2前・後			2	○									兼2
児童サービス論	2前・後			2	○									兼2	



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
図書館司書に 関する科目	情報サービス演習A	3前・後			1		○								兼2
	情報サービス演習B	3前・後			1		○								兼2
	図書館情報資源概論	2前・後			2	○									兼1
	情報資源組織論	1前・後			2	○									兼2
	情報資源組織演習A	2前・後			1		○								兼2
	情報資源組織演習B	2前・後			1		○								兼2
	図書館基礎特論	3前・後			1	○									兼2
	図書館情報資源特論	3前・後			1	○									兼2
	図書・図書館史	3休			1	○									兼1 集中
	小計 (16科目)	—	0	0	25	—			0	0	0	0	0	0	兼4
司書教諭に 関する科目	学校経営と学校図書館	3前			2	○									兼2 オネパス
	学校図書館メディアの構成	2後			2	○									兼1
	学習指導と学校図書館	3後			2	○									兼2 オネパス
	読書と豊かな人間性	2前			2	○									兼1
	情報メディアの活用	2後			2	○									兼1
小計 (5科目)	—	0	0	10	—			0	0	0	0	0	0	兼3	
合計 (231科目)		—	20	592	77	—			15	12	2	0	0	0	兼71
学位又は称号		学士(英語キャリア)、学士(教育)			学位又は学科の分野			文学関係、教育学・保育学関係、経済学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
<p>学士(英語キャリア)の学位を取得する学生は、専門教育科目のうち、専門複合科目から42単位以上、専門研究科目から74単位以上、教養教育科目から8単位以上、合計124単位以上を修得すること。</p> <p>学士(教育)の学位を取得する学生は、専門教育科目のうち、専門複合科目から20単位以上、専門研究科目から24単位以上、専門初等教育科目から74単位以上、教養教育科目から12単位以上、合計130単位以上を修得し、かつ小学校教諭一種免許状を取得すること。</p> <p>(履修科目の登録の上限：各セメスター間24単位)</p> <p>備考※1：留学中の学修等について単位認定を行う科目。 備考※2：国内外のインターンシップやボランティア活動における学修について単位認定を行う科目。</p>						1 学年の学期区分		2 学期							
						1 学期の授業期間		15 週							
						1 時限の授業時間		90 分							
資格取得要件及び履修方法						<p>資格取得に関する科目については、卒業要件外科目とし、各セメスターの履修上限単位に算入しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職課程 (小学校教員コースを除く) <ul style="list-style-type: none"> <li>教職に関する科目 <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt; 中学校1種 &gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>教職に関する科目 31単位</li> </ul> </li> <li>&lt; 高等学校1種 &gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>教職に関する科目 27単位</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・日本語教員養成課程 (小学校教員コースを除く) <ul style="list-style-type: none"> <li>日本語教員養成に関する専門科目 30単位以上</li> <li>日本語教員養成に関する専門科目は、「日本語教育実習演習」「日本語教育実習」のほか、専門複合科目の「言語基礎論」、専門研究科目の「日本語学概論」「日本語学Ⅰ・Ⅱ」「英語学研究A・B」「応用言語学」「日本語教育法Ⅰ・Ⅱ」「日本文学A・B」が対象となる。</li> </ul> </li> <li>・図書館司書課程 <ul style="list-style-type: none"> <li>司書に関する科目 24単位</li> </ul> </li> <li>・司書教諭課程 <ul style="list-style-type: none"> <li>司書教諭に関する科目 10単位</li> <li>ただし、本学の教職課程において所定の単位を修得し、教員免許状を有すること。</li> </ul> </li> </ul> </li></ul>									

授 業 科 目 の 概 要				
(英語キャリア学部英語キャリア学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 教 育 科 目	専 門 複 合 科 目	LgD: Reading & Writing I (Global Issues I)	<p>Students in this course will examine reports on science, technology, and politics in the printed English language. They will evaluate the reports, considering accuracy and reliability. They will do research to find relevant facts. They will discuss, both orally and in writing, the impact of the reports and possible responses by the people affected. This course focuses on the use of written English. Students will practice reading skills such as skimming and scanning as well as in depth comprehension and evaluation. They will also write effective university level paragraphs, presenting information and opinions clearly. They will learn how to use appropriate levels of formality in correspondence, reading and composing letters, memos, and email messages.</p> <p>政治、科学技術、自然科学における論文に対する分析力を身につけることを目標とする。具体的には、論文の信頼性と妥当性を評価し、更に、関連事例について調査を行う。また、論文がもたらす波及効果や可能な対応策について、討論やレポートを通じて議論する。</p> <p>本科目では、英語論文を対象とし、精読や論述に加え、スキミングやスキニングなどの読解力を身につける。また、事実や論旨が明確なレポートの作文力も身につける。更に、手紙、メール、メモなどを読み書きする際に必要な適切な文体を学ぶ。</p>	
		LgD: Reading & Writing II (Global Issues II)	<p>Students in this course will continue to examine reports on science, technology, and politics in the printed English language. Refining their critical skills, they will discuss, both orally and in writing, the impact of the reports and possible responses by the people affected.</p> <p>This course focuses on the use of written English. Students will read longer and more complex materials as their skills improve. They will improve skills in finding information, using library and electronic sources. They will learn to evaluate information and the reliability of sources. They will learn to paraphrase and summarize. They will continue the development of writing skills begun in Reading &amp; Writing I, extending the length of their compositions to essay length and also including information from their research in them.</p> <p>LgD: Reading &amp; Writing Iで培った論文の分析力を高めることを目標とする。具体的には、政治、科学技術、自然科学における論述力を向上させ、論文がもたらす波及効果や可能な解決策について、討論やレポートを通じて議論する。</p> <p>本科目では、英語論文を対象とし、読解力を向上させるため、難解な長文文章に取り組む。また、図書館やインターネットを利用し、情報収集力も高め、情報やその情報源の信頼性に対する検証法を学ぶ。更に、要訳や様々な表現を学び、LgD: Reading &amp; Writing Iで培った作文力を活かして、実際の調査を経て、小論文を作成する。</p>	
		LgD: Speaking & Listening I (Groups within Societies)	<p>Students in this course will consider subgroups which are found within larger societies, learning to recognize and appreciate the problems and interests of different groups of people around the world. The specific subgroups will be chosen by the instructor, but may include natural groups (male/female, young/old), ethnic groups (Ainu, Japanese-Americans), or other identifiable segments of society. Students will examine the characteristics of the subgroups, how the members identify themselves, how they fit into the larger community, what problems they face, and likely future developments, along with possible solutions to any problems.</p> <p>This course focuses on the use spoken English. It is designed to socialize students into an active approach to language learning. Students will participate in group discussions and cooperate in making oral presentations. Reading and writing will be required for preparation and follow up exercises.</p> <p>社会における様々な共同体を、共同体の問題や利益といった観点から学ぶことを目標とする。ここでいう「共同体」とは性別、年齢、民族といった様々な形態を含む。（どの共同体が取り上げられるかは教員の裁量による。）それぞれの共同体を、共同体の構成、共同体の連携、共同体が抱える課題といった観点からその特徴と解決策を学ぶ。</p> <p>本科目では、英語による議論を対象とし、活発に英語学習に取り組めるよう社交性を身につける。また、グループディスカッションやグループによるプレゼンテーションによる発信力も身につける。授業の予習・復習時には英語による読解や作文が必須となる。</p>	

専 門 教 育 科 目	専 門 複 合 科 目	LgD: Speaking & Listening II (Conflicts within Societies)	<p>Students in this course will discuss the interests of groups within society, but from a world (rather than a national) perspective. From the viewpoint of one or more social groups, the class will examine a topic (to be chosen by the instructor) such as the distribution of wealth, cultural imperialism, free trade vs. protectionism, big vs. small business, children's rights, aboriginal rights, modern slavery, health care, language death, or a similar topic. Students will evaluate the extent and importance of the problem(s), consider the causes and the results, and discuss actions which might be taken.</p> <p>This course will build on the skills learned in the Speaking &amp; Listening I, integrating more academic content into the course. Students will listen to short speeches, audio and video clips. They will learn to take effective notes. Students will continue to work in groups, assuming specific roles (leader, recorder, reporter, or devil's advocate, for example) as they discuss various aspects of culture and society. They will also make oral presentations, choosing content and approach to suit their audience.</p> <p>社会における共同体を世界的視点から議論することを目標とする。具体的には、複数の共同体の見地から、様々な事例(どの事例が取り上げられるかは教員の裁量による。)を取り上げる。例えば、「自由貿易と保護貿易」、「大企業と中小企業」、「医療保険」、「危機言語」などである。これらの問題の重要性を考慮し、その因果関係を調べ、可能な解決策を検討する。</p> <p>本科目では、LgD: Speaking &amp; Listening Iで培った英語による発信力を向上させる。また、演説やビデオのリスニングや効果的なノートの取り方を学び、グループでの分担(議長、書記、報告者、反対論者など)による作業も引き続き行う。更に、聞き手に分かりやすいプレゼンテーションの方法を学ぶ。</p>	
		LgD: Argument & Persuasion I (Media Influences)	<p>This course will proceed with an examination of attempts in the media to persuade, considering the target audience, the use of provable and opinion statements, and presuppositions held by the preparer and the audience. Students will identify different approaches to convincing an audience (using authority, prestige, emotion, or logic) and practice their use. Students will learn to evaluate the validity and soundness of implicit or explicit Socratic syllogisms. Later, the students will read arguments from a variety of sources, analyzing the claims therein and responding to them.</p> <p>This course will begin with a short review of paragraph and essay writing before proceeding with the materials described above. Throughout the course, students will also practice the English language skills employed in bargaining, negotiation, and compromise.</p> <p>メディアにおける説得できるコミュニケーション力を身につけることを目標とする。具体的には、メディアの視聴者への配慮、分かりやすい意見の示し方、視聴者との共有情報などに配慮したコミュニケーションを学ぶ。説得できるコミュニケーションを行うためには、権威や感情や論理などを工夫する必要があることを学び、その練習を行う。また、暗示的、あるいは明示的なソクラテスの論法の検証も行う。更に、様々な分野における論文の論法を学ぶ。</p> <p>本科目では、まず、英語による論評や小論文に取り組む。そして、商取引、交渉、示談におけるコミュニケーションに取り組む。</p>	
		LgD: Argument & Persuasion II (Presentations)	<p>Students will prepare quality presentations, using appropriate computer software. In evaluating their classmates' work (as well as speeches, lectures, presentations, advertisements, and other materials), students will learn to recognize common (both intentional and accidental) logical errors. Students will discuss the effects these mistakes have on the audience or reader, as well as discuss possible corrections or revision. They will discuss the advantages and disadvantages of ignoring and limiting information.</p> <p>This course requires the students to find, select, and organize information for the effective presentation of an idea or product. Students will examine and practice the use of images, specific words, slogans and jingles, themes, and comparisons as means to convince an audience. They will analyze the language used in sales and advertising, especially such topics as connotations, word choice, and sentence form.</p> <p>効果的なプレゼンテーションを学ぶことを目標とする。具体的には、スピーチやプレゼンテーションを評価し、論理的な誤りを見抜く力を身につける。また、誤りを訂正することにより、どのような効果が得られるかを検討する。更に、提示すべき情報の欠如などによりどのような問題が生じるかも検討する。</p> <p>本科目では、英語により効果的にプレゼンテーションを行うために必要な情報収集力などを身につける。また、画像、音響効果、語彙などの効果的な使用法も学ぶ。更に、営業活動や広報活動における言葉づかい、特にニュアンス、語彙選択、構文といった言語分析も行う。</p>	

専門教育科目 専門複合科目	LgD: Academic English (Cultural Perspectives)	<p>Students will read fiction or nontechnical materials which present a point of view (readings selected by the instructor). They will analyze the stories or essays, noting the characters, plots and subplots, conflicts and their resolution. Students will examine the contents of the readings in relation to the authors' situation and other real world considerations. They will evaluate each author's message as it relates to their own and other cultures. They will learn to look beyond the literal meaning to determine attitudes and bias, noting connotations and implications. They will react to the readings with summaries, reports (both oral and written), discussions, and reviews.</p> <p>小説やエッセイといった文章の様々な視点を学ぶことを目標とする。具体的には、英語による文章(どのような文章が取り上げられるかは教員の裁量による。)を対象に、登場人物やあらすじ、そして事件とその解決策などに着目して物語やエッセイを分析し、読解する。また、主題を著者の立場や事実との関連を調査したり、著者のメッセージがどのような文化的背景を持つかを検討したりする。そして、ニュアンスや示唆に留意し深層に秘められた著者の意見や偏見を見抜く力を身につける。更に、読解した文章に対して、要訳、プレゼンテーション、レポート、議論、論評といった活動を行う。</p>	
	LgD: Analytical Thinking (Cultural Reflections)	<p>This course examines ideas from the shared culture of people around the world, especially those sharing the English language. Students will be asked to look at materials (both popular and 'classical'), examine the ideas presented, consider their diffusion throughout the world (or lack thereof), and evaluate their importance in the modern world where English is in such widespread use. Students will consider the reasons some works become 'classics' while others do not. Students will learn to appreciate the differences in emphasis various societies place on these ideas—and how those differences can be handled in cross-cultural contacts.</p> <p>This is an advanced course for improving English language speaking and listening skills. Improvement in careful reading for detail will also be an important part of the course.</p> <p>世界各地において英語を通して形成される文化圏における考え方を学ぶことを目標とする。(一般向けや古典的な)文献にみられる考え方がどのように浸透(あるいは衰退)するかを考え、英語が世界各地で使用される現代における重要性を検討する。また、古典的と呼ばれるまで定着する作品とそうでない作品との相違点を検討する。更に、様々な社会において重視される考え方が異なることを認識し、異なる文化間における問題の対処法を学ぶ。</p> <p>本科目は、英語の会話・聴解能力を高めると同時に精読能力の向上も目指す。</p>	
	LgD: Introduction to Academic English	<p>しっかりとした文法力や構文把握力は、英語の表現に関する感覚を鋭敏にし、観察力や説明力を養い、緻密な読解力や正確な作文力を育て、ひいては円滑なコミュニケーションを可能にする。この授業では、アカデミックな英語理解に必要な文法事項の修得と、センテンスレベルでの精緻な英文理解に焦点を当て、文学、政治、社会、経済、歴史、環境などに関する専門的な書物や論文を正確に読んだり、その内容について書いたり、議論したりする力の土台となる部分をしっかりと身に付けたい。</p>	
	LgD: Reading Comprehension	<p>This course focuses on the development of specific skills important to success in studying English. Students will learn to demonstrate comprehension of reading materials through effective paraphrase. Upon completion of this course, students should be familiar with the basic skills needed for paraphrasing, such as using synonyms and writing various sentence types (compound, complex, compound/complex). In addition, students will understand the importance of precision in word choice in presenting ideas. Students will complete a variety of short reading and writing assignments to achieve these aims.</p> <p>英語力向上のために重要なスキル修得を目標とする。具体的には、効果的なパラフレイズ(言い換え)を通して、課題に関する理解度を示すことが求められる。類義語を使用したり、複合的な、複雑な、あるいは両方の要素をもった文章を書いたりして、パラフレイズに必要な基本的なスキル修得を目指す。また「考え」を説明するには、適切な単語の選択が大切であることも学ぶ。これらの修得目標を達成するために、様々な短めの読み書きの課題をこなすことが求められる。</p>	
	アカデミック・リーディング I	<p>「英語を学ぶ」から「英語で学ぶ」へステップアップすることをめざして、基礎科学系の英語文献を読むための基本的なスキルを身につけることができるよう指導する。外国語としての英語の運用能力を高めるためには、英語で書かれた文章の内容を正確に読み取る精読のトレーニングが欠かせない。本科目では、その最初のステップとして、学術的には平易な内容のオーソドックスな文献や、現代的なトピックを扱った身近な英文資料を題材として、文脈を踏まえた正確な語義の理解力、筆者の主張を的確に把握する読解力を身につけることを目標とする。</p>	
アカデミック・リーディング II	<p>アカデミック・リーディングIの学習課題を引き継ぎ、基礎科学系の英語文献を題材として精読のスキルアップを図る。各クラスの担当教員がそれぞれのテーマ設定で選定した題材を使用し、学術的な語義の定義や文脈の理解に加えて、英語に特徴的な文章の構成方法や論理の展開方法が理解できるようになることを目標とする。このステップでは、教員の指導に依存した英語文献の読解から自立できるよう、精読のスキルそれ自体を身につけることも課題とする。</p>		

専門教育科目	専門複合科目	アカデミック・リーディング III	アカデミック・リーディングⅡの学習課題を引き継ぎ、専門的な英語文献を題材として精読のスキルアップを図る。本科目では、「英語を読む」から「英語で読む」へ精読のフェーズをシフトすることを課題とする。英語文献を英語のまま理解するスキルを身につけることは、読解のスピードを上げるために欠かせない学習のステップとなる。パラグラフ単位の文意をすばやく読み取ること、ひとまとまりの文章の要旨を的確に理解すること、重要な主張のポイントを見つけ出すこと等、「英語で読む」ための基本的な学習課題に取り組む。	
		アカデミック・リーディング IV	アカデミック・リーディングⅢの学習課題を引き継ぎ、専門的な英語文献を題材として精読のスキルアップを図る。本科目では、予定されている英語圏への留学を視野に入れて、留学先での専門科目の履修に備えるアカデミック・リーディングを指向する。英語圏の大学では、指定された文献を予習してディスカッションに備えることを受講態度として要求されることが多い。その身構えを育てるために、英語文献から指定された適度なボリュームの英文を限られた時間で読みこなすことに慣れるためのトレーニングを行う。	
		ゼミナール I	キャリア形成に対応した専門的な学びのスキルを身につけることをめざす。2年次で履修するアカデミック・リーディングⅢ・Ⅳの学習課題に準拠して、専門的な文献の文脈を構成する深い知識、専門分野に固有の語義の定義や概念の理解を深めることをめざす。単に記述された事実や特定の主張から学ぶだけでなく、そこでは何が問題とされているのかを吟味する洞察力を磨くことが、専門的な文献を参照しつつ自らの見解を構成するうえで不可欠の学習課題となる。この要件を踏まえて、初学者にも理解しやすい題材を使って明晰な思考を身につける。	
		ゼミナール II	ゼミナールⅠの学習課題を引き継ぎ、キャリア形成に対応した専門的な学びのスキルを身につけることをめざす。本科目では、専門的な要求に合った自らの見解を構成し、それをディスカッションの場にふさわしい意見として述べる、あるいは論理的に筋の通った文章として表現するためのスキルを身につけることをめざす。日本語による口頭表現や文章表現の水準を引き上げなければ、英語による自己表現の水準は高まらない。予定されている英語圏への留学を視野に入れて、英語による自己表現へと橋渡しするディスカッション能力の向上も課題とする。	
		言語基礎論	ことばは人と人をつなぎ、文化や文明を作り、社会の基盤となっている。近年の目を見張る科学技術の発展も知識や技能を伝えることばがなければ不可能だっただろう。「ことばは力である」と言っても過言ではない。また、ことばが人を喜ばせたり、怒らせたり、悲しませたり、楽しませたりするものであることは、日常の人間関係の中で実感していることである。ことばを大切にすることは人を大切にすることである。本科目では、ヒトという種に固有のことばの諸相に光を当て、ことばについて広い視野から考察するとともに、現代社会におけるコミュニケーションと人間の関係を明らかにする。	
		キャリア・デザイン	本科目では、将来、国際的な舞台上で活躍するであろう人材の育成を念頭におきながら、国際化におけるグローバル・キャリア・デザインとは何か、学生がそのことを理解したうえで、自らのグローバル・キャリア・デザインを描くための知識や情報、事例を提供する。講義では“Career development”の観点から(1)個人がキャリアを発達させていく心理学的メカニズム(「キャリア発達」)にもとづく、キャリアをデザインするための諸理論、(2)キャリア発達が個人と組織の双方にとって意義あるものとされる経済学・経営学を背景とする「キャリア開発」の習得を目指す。また、自らのキャリア形成への意識を高めるために、グループワークやディスカッションを組み合わせる主体的に課題に取り組む姿勢を培う。	
		キャリア形成 A	実社会には様々な業界と職種がある。代表的な業界とそこでの職種について話を聞くことを通して、自分の適職へのアプローチ方法を学び、理解する。本科目では本学学生の志望の高い業界を主体に、その第一線で活躍している方々を毎週、講師として招き、「業界(企業・団体)の現状」「今後の動向」や「求められる人材」について研究する。そして、自分の職業理解と、実際に企業で働くこととの違いを習得しながら、自分に合った就職先=適職を見つけ、卒業後の経済的自立の実現につなげる。	
		キャリア形成 B	実社会には様々な業界と職種がある。代表的な業界とそこでの職種について話を聞くことを通して、自分の適職へのアプローチ方法を学び、理解する。本科目では志望が高い業界、進んでもらいたい就職先(企業・団体)と職種、グローバルに展開する企業・団体で活躍している方々を毎週、講師として招き、「業界の現状」「今後の動向」や「求められる人材」について研究する。そして、自分に合った就職先=適職を見つけ、社会とのかかわりの中で、自らのアイデンティティを確立する方策を探る。	
英語ビジネス・レビュー A	Courses in Business and Management are designed to provide students an introduction and overview of many varying areas in business. After introducing students to the language and vocabulary of business, these courses focus on the latest developments in international business and management. These courses will also help students determine which specific area of business is most interesting to them.  本科目では、ビジネスのさまざまな分野についての概要を学ぶ。ビジネス関連の語彙を習得した後は、最新の国際ビジネスとマネジメントの傾向に焦点をあてる。これにより学生一人ひとりが、ビジネスのどの分野に興味をもっているか理解することができる。			

専 門 教 育 科 目	専 門 複 合 科 目	英語ビジネス・レビュー B	<p>Business communications and presentations are the fundamental to success in any institution or enterprise. These courses will teach students to communicate in a clear, concise, complete and correct manner. Students will learn how to manage the content of their communication as well as the style of their presentations so that the information is presented in an informative and persuasive manner.</p> <p>コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力はどのような組織や企業においても成功するための基礎である。本科目では、どのようにして明確に、簡潔に、完全に、そして正確にコミュニケーションを行うのかについて学習する。伝えたい内容をどのようにマネージし、それをどのようにプレゼンテーションすれば、より有益な説得力のある意志伝達ができるかを学ぶ。</p>	
		英語ビジネス・レビュー C	<p>Courses in Marketing introduce the student to marketing theories and methods with a focus on the ways in which consumers make purchasing decisions and the strategies that business may use to influence those decisions. These courses also focus on the role that marketing must play in a global market and examine which strategies may be most appropriate across different national markets.</p> <p>本科目では、マーケティングの理論と方法を、消費者がどのようにして購入を決めているか、そして、企業がそのプロセスにどのように影響を与えているか、という点に焦点をあてて考察する。また、マーケティングが国際市場で果たしている役割と、国内における有効なマーケット戦略についても学ぶ。</p>	
		英語ビジネス・レビュー D	<p>Courses in Economics provide an overview of the microeconomic and macroeconomic issues that affect how individuals, governments and businesses act within the market. These courses introduce students to the relationship of supply and demand within a free market and examine how traditional economic ideas are adjusting to an emerging global economy.</p> <p>本科目では、ミクロ経済とマクロ経済が市場において個人や、政策、企業の方針などにどのような影響を与えるかを考察する。自由市場における需要と供給の関係を学ぶとともに、これまでの経済学の概念が、国際化する経済にどのように順応しているかについて学ぶ。</p>	
		英語ビジネス・コミュニケーション	<p>English Business Communication course gives students a clear insight into what constitutes efficient written (and spoken) business communication in English. Students expect to practice the fundamental business communication theories and key concepts introduced during the course through the assignments, case analyses, and presentations. By the end of the course students will be able to take a strategic approach to English business communication (e.g. writing persuasive business messages in English; using politeness strategies and tactics in delivering sensitive business messages) and use key business English terminologies.</p> <p>本科目は、英語によるビジネス・コミュニケーション（ライティング、スピーキング）の効果的な方法を明確に理解できるようになることを目的とする。学生は、与えられた課題、事例分析及びプレゼンテーションを通して、基本的なビジネス・コミュニケーションの理論及び主要な概念を実践できるようになることが期待される。学生は、授業の終了時には戦略的な方法（例：英語での説得力のあるビジネス・レターの書き方、微妙な問題を扱う英語でのビジネス・レターの戦略的・戦術的な書き方）により英語でのビジネス・コミュニケーションを進めることができるようになるとともに、ビジネス英語の重要な用語を使えるようになる。</p>	
		英語ビジネス・プレゼンテーション	<p>English Business Presentation course helps students establish fundamentals on using English for effective presentations in business context. Emphasis will be given on persuasive business presentations. The course is interactive and task-oriented. Various individual and team presentation assignments will allow students to practice verbal and nonverbal presentation skills. Course instructor's feedback will give students a clear picture of their personal communication tendencies, and an indication of how they can enhance their own individual communication skills for business purposes.</p> <p>本科目では、商談において英語による効果的なプレゼンテーションを行うための基礎を定着させることを目的とする。授業は、説得力のあるプレゼンテーションに重きを置き、教員と学生間で双方向、職務指向で進められる。学生は、個人やチームによるプレゼンテーションを通して、口頭によるプレゼンテーションや文章によるプレゼンテーションを練習する。教員からの学生へのフィードバックにより、学生は自身のコミュニケーションの傾向を明確に理解することができる。とともに、ビジネスにおけるコミュニケーション・スキルを高めるための指標を与えられる。</p>	
		英語学複合研究	<p>本科目では、社会における様々な談話の領域における英語のありかたの理解を深めることを目的とする。例えば、広告の英語においては代名詞を用いないで、特定の語句の反復が見られるが、それは、その語句が消費者に記憶されることを目的とするからである。法律の文書でもこういった反復は見られるが、この領域では代名詞等による指示対象の誤解を避けるためである。新聞の英語にはまたそれ独自の文体がある。虚構の文学においてもそうである。こういった文体的な違いに目を向けることにより、社会の中でのコミュニケーションとしての英語がどのような働きをしているかに対する学生の理解を深めたい。</p>	

専門複合科目	英語教育学複合研究	日本人が知っている英文法の内容は、多くの場合、中学や高校で教わった英文法の内容である。英文法は重要であるが、現在、中学・高校・大学で用いられている教育学習英文法の内容には、残念ながら不備や欠陥がある。本科目では、いくつかの文法構文を取り上げ、内外の文献を読んだり、自ら資料を集めたりして、それらの構文が持っている意味と働きを明らかにする。併せて、それらの内容を学習者にどのような形で提示するかについて考察する。最終的には、特定の構文を特定の学習者に教えるための教材を作る力を身につけることを目指す。なお、本科目は、授業をすべて英語で行う。	
	英語文学複合研究	3年次に留学した学生が、留学前に修得した基礎知識（英語および社会学系の科目）と留学中に修得した発展的知識とを、帰国後の4年次において複合、深化させるための選択科目で、学生が自分で特に関心を抱くに至ったアメリカもしくはイギリスの文学作品あるいはその作品をめぐるテーマに関し、教員と討議を重ねながら研究を進展させ、研究の結果を報告書の形で纏める。	
	グローバル・ビジネス複合研究	これまでに習得した基礎的な学的知識と専門英語の能力を活かして、グローバル経営の具体的・実践的な問題や課題に立ち向かうためのトレーニングを行う。本科目は、ディスカッション形式とし、題材には英文専門ジャーナル（Harvard Business Review誌等）の論稿及び事例研究を用いる。この授業の最大の狙いは、多様な問題が幾層にも折り重なった複雑なグローバル経営の事象に目を凝らし、これまでに日本語と英語の両方で学んだ経営学・会計学・マーケティング論・流通システム論・国際経営論の知見を総動員して、いまここで立ち向かうべき問題や課題を自ら特定できるようになることである。グローバル経営の実務で求められているのは、状況適応的な洞察力とマネジメント力であって、単なる専門知識の動員や意思疎通のための英語力ではない。何ができればグローバル経営を実効的に動かすマネジメントができたことになるのか。この問いの内実が理解できるように指導する。	
	国際教養複合研究	本科目は、留学帰国生を対象とし講義および演習形式で行う。学生が留学を通じて身につけた国際教養をもとに、より専門性を高め、実践・運用面での応用力を習得することを目的とする。学問諸分野の知識を多角的に取り入れ、多様な世界観、価値観を身につけるだけではなく、地球社会での政治、経済、社会、文化等を理解し、問題点の把握、分析、解決へのプロセス、判断に至る一連の能力の育成を目指す。具体的な科目内容は、担当各教員が設定するが、国際関係、経済、社会、文化、法学、ホスピタリティマネジメント（航空、旅行、ホテルなどのサービス産業）、情報関係の分野を含む。日本をはじめグローバル世界の多様性を学びつつ、共生共存への道を探求する。なお、本科目は、担当者により授業を英語で行う。	
	英語キャリア卒業研究Ⅰ	本科目は、特定指導教員の承認のもと、卒業研究テーマおよび研究計画書を作成し、各自が設定したテーマに基づいて研究を行い、その成果を卒業論文などの具体的な「かたち」に仕上げていくインディペンデント・スタディである。「Ⅰ」は長期的な研究プロセスの基礎段階にあたる。評価は、研究の進捗状況を報告する2回の「研究レポート」によって行われる。「研究レポート」の内容が芳しくなければ、「Ⅱ」へ進むことはできない。	
	英語キャリア卒業研究Ⅱ	「Ⅱ」は、長期的な研究プロセスの発展・集大成にあたる。具体的には、既に「Ⅰ」で得られたある程度の調査・研究結果を、論文のレベルに引き上げる作業が中心となる。将来、各専門分野のエキスパートとして、特に大学院を含む研究機関などをを目指す場合は、これらのプロセスを経ることによって、能力・気力ともに長期間の研究活動に耐えられることを大学内外に向けて示すことになる。	
専門研究科目	英語学概論	英語とはどのような言語かということについて、言語科学の見地から、わかりやすく論じることを主たる目標とする科目である。具体的には、基本的な発音の仕組み、発音の規則、語形変化、文の構造、語・文の意味、英語の歴史などを検討する。次に、社会的な文脈・場面の中での意味機能や談話機能を検討する。さらに、社会的・地理的方言における発音・語彙の違いや、様々な談話領域における文体も検討する。	
	現代英文法	日本のように英語を外国語として教育・学習する国では文法教育・学習が大きな役割を担う。本科目は、大学入学以前に学習してきた現行の教育学習英文法の内容とその指導法を、先入観を持たずに、素直に見直し、コミュニケーションを支える正しい事実とその原理に基づいた説明法を発見することに努める。併せて、学生が、将来、英語キャリアに従事する際の基盤となる役に立つ現代英文法の修得に努める。なお、本科目は、授業をすべて英語で行う。	
	英語学研究 A	英語学概論で学んだ言語理論や言語獲得理論を通じて、言語獲得過程の観点から効果的な英語教育の取り組みを考えることを目標とする。具体的には、まず、言語獲得に関する言語理論や言語獲得理論における基本的な概念を確認し、各理論の概要を再認識する。次に、第1言語と第2言語の獲得過程を概観する。そして、言語理論や言語獲得理論の成果をどのように英語教育に取り入れるべきかを考える。例えば、生徒・学生の言語運用能力を高めるために効果的なメタ言語能力の育成が挙げられる。さらに、言語理論や言語獲得理論の理論的課題を把握するために、最新の動向を概観する。	
	英語学研究 B	英語学概論で学んだ形態論、統語論の知識に基づき、英語の構造的側面に対する分析力を身につけることを目標とする。具体的には、まず、形態論や統語論における基本的な概念を確認し、各理論の概要を再認識する。次に、形態論や統語論に対してより高度な知識を習得するために、各理論における主要な分析を概観する。そして、形態論や統語論における分析の基盤である論証の技法を学ぶ。例えば、言語データに着目し、その言語データを説明する分析を仮説として構築し、その分析を検証するといった仮説・演繹法が挙げられる。さらに、形態論や統語論の理論的課題を把握するために、最新の動向を概観する。	

専門 教育 科目	専門 研究 科目	英語教育学	国際化の進展に伴い、日本人が仕事の場で英語を使う機会が増えてきている。英語が外国語である日本においては、学校における英語教育が重要な役割を担うが、学校における英語教育は、その目的や学習の各段階における到達目標、教師の英語運用能力や教材の指導力、児童・生徒・学生の発達段階や英語力、教える知識の中身やスキル、その指導の仕方、学級経営力など、多くの要因が絡み合う複雑な営みである。本科目では、日本における英語教育のありようを決定するこれらの要因について考察する。	
		応用言語学	英語の研究分野は、音声学・音韻論、生成文法、言語習得、教育学習文法、意味論、認知言語学、語用論、文体論、英語史、コーパス言語学など、多岐にわたる。近年、コミュニケーションの道具としての英語の側面や“survival English”としての英語の側面が重視されるとともに、英語研究の英語教育における比重が下がってきているきらいもあるが、学習者に一歩進んだ英語力を身につけさせるには、英語の諸研究の成果を英語教育に活かすことが重要になる。本科目では、英語諸研究の成果の英語教育への応用について具体的に考察する。	
		英語科教育法Ⅰ	英語科の授業を自信をもって行えるように、基礎的な理論と指導技術を指導する。我が国の学校における英語教育の伝統を体験的に検証しながら、学習指導要領に示されている教科の目標を実現するための「教員としての考え方」と、指導を成功させるために必要な理論学習と実践方法・技術をグループ活動を中心にして模擬授業の交え相互啓発的に学ぶ。「教授法」を真に活かすために必要な、優れた英語運用能力を育成するために受講者の英語を使ったディスカッションやスピーチの能力育成を行う。	
		英語科教育法Ⅱ	我が国の学校における英語教育の伝統を深く検証し、学習指導要領に示されている教科の目標を実現するための「教員としての考え方」と、指導を成功させるために必要な理論学習と実践方法・技術をグループ活動・発表を中心にして、模擬授業も交え相互啓発的に学ぶ。課題発見型の授業を行う中で、理解を深める。教科教育法の学びを実地に活用できるよう、優れた英語運用能力を育成するために受講者の英語を使ったディスカッションやプレゼンテーション等の能力育成の徹底を期す。	
		英語科教育法	本科目では、経済・社会等のグローバル化、国際的な相互依存関係の深化、ICT革命による知識社会への移行等が急速に進展する現代社会において、英語教員に求められる資質・能力の基盤を育成するとともに、早期英語教育（小学校英語教育）や国際理解教育に係わる体系的な理論学習や実践演習を行う。特に、専門職としての英語教員に求められる高度な英語運用能力、卓越した授業実践力は言うまでもなく、教職というキャリアに対する強い使命感やその根底を支える人間関係構築力を育成する。そのためには、伝統的な外国語教授法からコミュニケーション・ランゲージ・ティーチングやICTを活用した最新の教授法に至るまでの英語教育理論や第二言語習得理論を学習するとともに、各理論や教授法と学校英語教育とを有機的に結びつけるための実践的・科学的なアプローチを習得する。また、アジア諸国の英語教育を中心とした世界の外国語教育の概観・分析を行う中で、日本型英語教育のあるべき姿や方向性を見極めるために必要な知見や授業分析力を培う。なお、本科目は、授業をすべて英語で行う。	
		英語文学概論	文学作品に親しむことにより想像力や思考力の醸成をはかり、大学における勉学全体に幅と深みを付与することを目標に、英語で書かれた文学作品、特にアメリカ文学を中心とした英米文学の著名な作品を対象としながら、文学史の概要、詩、小説、演劇、随筆など文学の諸ジャンルとそれらの実態、作品と作家や時代・社会との関わり、多岐にわたる文学研究法と背景をなす思想や哲学、映画化された作品の場合は映画との相違など、幅広く学ぶ。	
		英語文学作品研究	アメリカあるいはイギリスの優れた文学作品を、ある特定のテーマなどに鑑みて取り上げ、詳細なテキスト分析を基本としながら、作家の伝記的事実や作品を生み出した社会状況の検討などを経て、作品の意義づけを行う。映画化された作品の場合には、原作テキストと映画との比較検討も行う。言語による論理構成力や自己表現力を涵養することも本研究の狙いのひとつで、教員による講義のほか、学生による研究報告とそれに基づく関連な討議を重要な一環と位置付ける。	
		英語演習A	英語圏の大学へ留学した際に必要な英語運用能力を習得させることを目標とする科目である。留学中の大学生活は全て英語を通じて行われるため、一定の英語運用能力が必要となる。そこで、大学内で行われる様々な事務手続き、講義、講演などを想定し、「聞く」「話す」「読む」「書く」といった英語四技能を高めることを目指す。 このような大学生活において必要な英語運用能力を測るテストとして最も広く用いられているTOEFLペーパー版で550点、インターネット版で80点を到達目標とする。	
英語演習B	英語圏での日常生活やビジネスを行うために必要な英語運用能力を習得させることを目標とする科目である。英語圏での生活では、オフィスを始め、レストランや買い物など様々な場面に対応した英語運用能力が必要となる。そこで、様々な日常生活やビジネスシーンを想定し、「聞く」「話す」「読む」「書く」といった英語四技能を高めることを目指す。 このような日常生活やビジネスにおいて必要な英語運用能力を測るテストとして最も広く用いられているTOEICで730点を到達目標とする。			



専門 教育 科目	専門 研究 科目	日本語学概論	日本語学とは、言語学の一分野として日本語を研究する研究分野である。本科目は、日本語という言語がどのような言語であるのかを科学的に考察し、理解することを目標とする。具体的には、音声学・音韻論（音声の分類、発音の仕組み、発音の規則など）、語彙論、文法論（文の構造、統語規則など）、意味論（語や文の意味分析など）、語用論などについて概説する。さらに、日本語の歴史的变化、地域的変種、社会的変種を考え、様々な形態の日本語にも触れる。	
		日本語学 I	本科目は、日本語の音声、文字、及び語彙の基本的性格を学習し、理解を深めることを目的とする。音声学・音韻論では、日本語の音声に関する基本的な知識を習得し、日本語に特有な、あるいは日本語学習者にとって問題となる音声現象の特徴とその理由を理解する。文字論では、仮名遣い、送り仮名、常用漢字などの日本語の表記法の問題を扱う。語彙論では、和語・漢語の区別、基本語彙など日本語の語彙・単語についての基本的知識を習得する。	
		日本語学 II	本科目では、日本語の文法論、意味論、語用論などを中心に学習し、社会における豊かなコミュニケーションの可能性を探ることを目的とする。文法論では、日本語の統語論の基礎を学び、日本語の構造や、取立て・テンス・アスペクト・モダリティなどをはじめとする重要な文法現象の体系を理解する。意味論では語や文の意味、あるいは敬語体系に見られるような話し手・聞き手・場面の相関関係を学ぶ。語用論では、日本語をコンテクスト（文脈）という観点から分析することによって、文章・談話、言語行動、言語行為、さらには日本社会におけるコミュニケーションの問題についても考える。	
		日本語教育法 I	本科目は、日本語学概論、日本語学 I で得た知識を基に、カリキュラムの作成から、実践的な教授法を学ぶことを目標とする。日本語教育法 I では、第二言語習得に関する理論的研究や様々な教授法を学び、より効果的な日本語教育を目指す。また、既存の日本語教授法や教材を調べ、実際の授業運営における問題点を考え、教材選定や教案作成といった実際の作業を通じて教授項目の検討も行う。 （オムニバス方式／全30回）  （高屋敷 真人／15回） 様々な教室活動、教材／教具論、教材開発と実習、誤用分析。  （内藤 裕子／15回） 様々な外国語教授法（理論と方法）と日本語教育への応用、主たる日本語初級教科書の分析。	オムニバス 方式
		日本語教育法 II	本科目では、日本語学概論、日本語学 I、日本語学 II、日本語教育法 I で得た知識を基に、カリキュラムの作成から、実践的な教授法を学ぶことを目標とする。日本語教育法 II では、コースデザインの方法、具体的な練習や教材作成を検討する。また、実践的な教授技術を身につけるために、模擬授業を行い、その問題点を考え、どのようにすればよりよい授業が構築できるのかを考える。 （オムニバス方式／全30回）  （渡嘉敷 恭子／15回） コース・カリキュラムデザイン、文型導入のしかた、評価と試験、添削のしかた、中上級の指導法などを担当。  （英保 すずな／15回） 主に模擬授業、それに関係する教材教具、教案の書き方、授業観察の仕方などを担当。	オムニバス 方式
		日本学 A	本科目では、日本とは何かを学ぶ。日本という国にかかわる事項、たとえば、文化や歴史、習俗、民族、伝統、芸能、宗教、法律、経済、現代社会事情等に関して、各担当教員の専門分野を中心に講義が行われる。学生が海外に留学する際に必要であろう自国に関する知識の教授と、海外からの留学生が日本に関して習得すべき知識の教授を目標とする。なお、本科目は、授業をすべて英語で行う。	
		日本学 B	本科目では、日本とは何かを学ぶ。日本という国にかかわる事項、たとえば、文化や歴史、習俗、民族、伝統、芸能、宗教、法律、経済、現代社会事情等に関して、各担当教員の専門分野を中心に講義が行われる。学生が海外に留学する際に必要であろう自国に関する知識の教授と、海外からの留学生が日本に関して習得すべき知識の教授を目標とする。	
		ミクロ経済学	経済学では、時間、カネ、モノを資源と呼び、こうした資源は無限にあるわけではない。ミクロ経済学の目的のひとつは、個人や企業が限られた資源を有意義に使う方法を明らかにするところにある。他方、こうした資源は、各種の市場に於いて無数の個人と企業によって取引されている。情報の構造、規制の程度、法制度などの相違がこれらの市場におよぼす影響について考えることが、ミクロ経済学のいまひとつの目的である。講義では、現実の経済で生じている具体例を用いて基本的な考え方を平易に解説する。先ず需要と供給、消費者と企業の行動、市場と価格メカニズムを取り扱う。それを踏まえて市場の失敗、不完全情報等の問題を考えていく。	

専門教育科目	専門研究科目	マクロ経済学	マクロ経済学は、所得、雇用、物価、為替相場、財政赤字など、一国の経済全体に関わる大きな問題を対象とする。経済全体の動きは、ミクロ即ち個々の経済主体の合理的な行動とは矛盾した結果となることも少なくなく、これがマクロ経済学の存在理由でもある。この科目は、将来的にビジネスに携わる学生にとり、経済全体としての仕組みを理解して経済現象を正しく読みこなすための大きな武器となるであろう。基本的な用語および基礎的な理論の理解に重点を置き、またそれに関連した統計を用いつつ講義を進める。先ず、経済の循環、所得概念を理解し、所得の決定について学ぶ。次に、簡単なモデルを用いつつ政策効果を考え、その後失業とインフレ、貯蓄と投資、景気循環、経済成長等を扱う。	
		イントロダクション経済学	私たちの暮らしは、経済的な営みを抜きにしては考えられない。日々の仕事や買い物だけでなく、マイカーの購入や年金の支払い、さらにはキャリアアップのための英語習得といった行為はすべて経済的な営みである。したがって、経済に対する正しい見方・考え方を身につけることは、現代に生きる私たちにとって不可欠である。 本科目は、高校までに学んだ社会科学の知識を深め、かつ広げるために、身近な経済行為や時事的な経済トピックスを題材に、経済学の発想と論理を平易に解説する。後に学ぶ経済学系科目の理解を助けるとともに、「経済学を学べば、経済や社会の姿がこれまでとは違って見えてくる」ようになることが、本科目の狙いである。 (オムニバス方式/全15回)  (加藤 一誠/10回) 消費者行動、コスト概念および公共の役割などを中心に講述する。  (篠原 総一/5回) 金融や国際経済の領域を中心に講述する。	オムニバス方式
		経営学概論	オーソライズされた経営学の概念や用語は、企業経営のマネジメントに携わるうえで、焦点の合ったビジネス・コミュニケーションを可能とするための基本的な素養である。この要求に準拠して、グローバル・ステージでも通用するベーシックな経営学の基本論理を学んでもらう。初学者にとって核となる学習課題は、ビジネスにおける組織的な活動のマネジメントを実践するために、どのような知識や技量が必要となるかを理解することである。経営学の中心的なテーマである経営戦略や経営組織の理論が実践で生きるのは、状況適的なマネジメントを駆動するビジネス・コミュニケーションにおいてである。また、グローバル・ステージで活躍するためには、マネジメントを実現する高度な英語コミュニケーション力も必要である。こうした要求を踏まえて、実践的な専門英語への橋渡しとなる英文テキスト課題にも取り組んでもらう。	
		会計学 I	英語が世界共通言語として用いられているように、ビジネスの分野において世界共通して用いられているのは簿記である。したがって、簿記はグローバルにビジネスの世界で活躍するために必要不可欠の知識となる。そこで、本科目では、簿記の用語や手法を丁寧に解説し、問題を解くことにより、企業の中で起こった事象をどのように記録し、まとめる必要があるのか、そしてその記録からどのような情報を得ることができるのかを学んでもらう。また、ビジネスの世界でグローバルに活躍するためには、簿記の用語を英語で理解しておくことも必要であるため、講義の中で簿記において用いられる用語を英語でも解説し、ビジネスの中で用いられる英語の知識も深める。	
		会計学 II	ビジネスの世界において、財務諸表のしくみやそこからどのような情報を得ることができるのかを知ることは重要である。また、企業がそれぞれの目標を達成すべく経営を行っていくのに必要な情報について理解することも必要である。そこで、本科目は、会計学Iで学んだ簿記の知識を基礎として、会計学の基本的な知識を習得することを目的としている。具体的には、会計の基本的な概念、財務諸表のしくみ、原価管理、利益管理、そして責任会計などについて学ぶ。また、グローバルに事業展開している企業が増えている中で、財務諸表をはじめとする会計に関する用語を英語で理解できなければライバル企業と戦うことはできない。したがって、講義の中では、重要な会計用語について英語でも解説し、将来企業に入って必要な知識を身につけてもらう。	
		ビジネス統計	各種の統計データを的確に扱う能力は、ビジネス現場における英語のプレゼンテーションやコミュニケーションでも不可欠の素養である。その最初のステップは、手元にある統計データから的確に事実を読み取る技量を身につけることである。そのためには、統計データがどのような手続き（分析・記述手法）によって作成されたのかを理解できなければならない。幸いビジネス統計の実践的な知識は言語の壁を超えて世界共通にオーソライズされており、日本語で学んだことは容易に英語でも理解することができる。本科目では、英語圏留学先大学でビジネス系科目を履修する際に必要となる基本的な知識を身につけてもらうことを目標として、数学が苦手な学生にも理解できるよう、ビジネス統計の基本を指導する。	
		ビジネス数学	英語学習において文法や構文の知識が基本であるのと同様、経済データの解析やビジネスにおける経営判断の基礎は数字である。数字をどれだけ読みこなせるかが、それぞれの現場における生産性を決定するといっても過言ではない。他方、経済学・経営学で頻繁に用いられるモデル分析にあっても基礎的な数学の知識は欠かせない。この科目では、実践を意識し、両分野で必須となる数学の基礎を、実例を多用しながら学んでいく。単に解法や計算に習熟するだけでなく、数字や数式の背後にある意味を的確に捉える力を身につけることが重要である。また、数学の学習を通じた論理的思考の鍛錬は、英語学習、とりわけ読解力の向上を強力にサポートするであろう。	

専門教育科目 専門研究科目	金融論	<p>金融機関と金融市場をキーワードとして、金融に関わる様々な現象を理解するための基礎知識を身に付け、それを基に金融の現状と将来を考えていく。その際、ミクロ経済学およびマクロ経済学で習得した基本的な考え方を応用しつつ進める。金融の大きな機能は、経済社会で行われる各種取引を媒介する、つまり交換手段として「お金」（通貨）が使用されること、および「お金の貸し借り」であり、それが全体としての経済活動に影響していくところにある。その意味では、国内外の経済情勢を把握し仕事を進めていくには、そうした「お金」の機能とその動きを理解していくことが不可欠である。最初に、金融の最も基本的な機能を学ぶ。金融取引と通貨の役割、金融仲介の理論的枠組み、金融システム、金融資産と金利等が対象である。次に、金融市場の基本的な仕組み・基本的な行動を取り挙げる。リスクとリターン、債券市場、株式市場、デリバティブ市場等を扱う。その後、金融リスクと公的当局による介入、中央銀行と金融調節、マクロ金融政策等を扱う。</p>	
	マーケティング論	<p>オーソライズされたマーケティング論の基本フレームを学んでもらう。世界中で定番化しているマーケティング論は、大規模なグローバル企業（メーカー）のマーケティング実践に対して規範的な知見を提供するものであり、マーケティング・マネジャーの育成に適した実践知の体系を備えている。この授業では、競争対応的に戦略志向を強める現代マーケティングの要求に立脚して、定評のあるマーケティング戦略論の基本理解に努める。また、グローバル・ステージで活躍するためには、組織的なマーケティング活動を駆動する高度な英語コミュニケーション力も必要である。こうした要求を踏まえて、実践的な専門英語への橋渡しとなる英文テキスト課題にも取り組んでもらう。</p>	
	ファイナンス	<p>現代の経済には、多様な金融商品・金融市場が存在する。金融商品を選択する際に注目すべきは、それら商品のリスクと利回りである。それらはお互いにどのような関係があり、どのように活用すべきか。各金融市場はどのような関係を持っているのだろうか。米国で発生したサブプライム問題の背後には、どのような金融商品が存在したのだろうか。また、企業の資金調達面では、借入よりも自己資金や株式による調達が増えてきており、それらはどのように決定されるのだろうか。こうした疑問に答えていくため、金融市場に於ける投資行動と、企業金融の分野について、教科書を用いながら進めていく。ミクロ経済学の基本的な概念を使用する。</p>	
	国際経済学	<p>グローバル化が進んだ現在、一国の経済が一国内だけで完結する時代は過去のものとなった。各国経済は世界経済に組み込まれ、ヒト・モノ・カネの国際移動は日々日常である。将来、グローバルに事業展開する企業で働くこととする者にとってももちろん、国内で生活する者にとっても、英語力だけでなく、国際経済学の知識が必須となった所以である。国際経済学はヒト・モノ・カネの国境を越えた移動を研究する。講義では、国際取引の記録である国際収支の仕組みを理解した後に、ヒトとモノの国際取引の仕組みである国際貿易理論、カネの国際移動を扱う国際金融論を順次学ぶ。実際の国際経済取引の仕組みを理解するため、制度の変遷についても講義する。</p>	
	国際経営論	<p>先修科目の「経営学概論」「マーケティング論」で習得した基礎的な学的知識と基本的な専門英語の運用能力をベースとして、国際ビジネスの市場展開と戦略課題について理解を深めてもらう。国際経営論でも実践的な理解は重要だが、事態の後追いとなるケーススタディに偏った学習では、未来に投じる戦略実践には届かない。国際ビジネスの戦略課題を浮き彫りにするうえで重要なのは、グローバル市場の動態を捉えるための確かな視点と論理である。本科目では、注目される国際ビジネスの動向からグローバル市場を捉える視点へ、さらに経営戦略レベルの洞察を磨くための理論的視座へと講義を展開し、国際ビジネスのマネジメントに必要な素養を身につけてもらう。また、授業の学習課題に即して、英文資料も参照しつつ、高度な実務英語の運用能力を実効的なものとするグローバルレベルのビジネスセンスを磨いてもらう。なお、本科目は、授業をすべて英語で行う。</p>	
	流通システム論	<p>先修科目の「経営学概論」「マーケティング論」で習得した基礎的な学的知識と基本的な専門英語の運用能力をベースとして、アジア市場における小売国際化の動向と多国籍型大規模小売業の戦略展開について理解を深めてもらう。前半は、流通論の現代的なトピックを理論ベースで概説し、日本市場における流通構造の特質に目配りしつつ、市場支配力をもつ大規模小売業が台頭してきた経緯を概観する。後半は、急成長を続けるアジア市場へと視点を移し、多国籍型大規模小売業が主導するダイナミックな市場開拓の戦略展開に照準して、グローバル市場をドライブする流通の競争ダイナミズムについて学ぶ。また、授業の学習課題に即して、英文資料も参照しつつ、高度な実務英語の運用能力を実効的なものとするグローバルレベルのビジネスセンスを磨いてもらう。</p>	
	国際関係論 I	<p>本科目は、国際関係論の導入科目と位置付けられる。近・現代国際関係の主要動向に関する議論を軸に、国家間関係、国際機関の動向、諸地域的情勢、グローバルな課題などについて考える力を育てる。適宜、最新の国際政治に関する報道に目を配りながら、関心を高めたり視野を広げたりすることを目的とする。</p>	
	国際関係論 II	<p>本科目は、国際関係論の発展科目と位置付けられる。各担当教員の専門分野を生かし、グローバリゼーション論、国際・地域紛争論、安全保障論、国際政治史、国際社会の法と秩序、国際人権論、地域情勢などについて、分析する力を育てる。より深い知識の定着と分析力の向上を図るため、各分野に関する研究動向や現状分析についても議論する。なお、本科目は、授業をすべて英語で行う。</p>	
	情報システム概論	<p>本科目では、急激に変化し多様化する情報化社会における情報システムの役割・位置付けを理解するため、コンピュータの歴史やコンピュータを構成しているソフトウェアおよびハードウェアに関する基礎知識について学習する。さらに、インターネットや情報セキュリティがビジネス・教育・生活環境等に与えた影響と発展について理論的かつ実践的に学ぶことにより、グローバル社会で必要とされる情報リテラシースキルを身に付けることを目標とする。</p>	

専門 教育 科目	専門 研究 科目	地域研究 A (欧米)	本科目では、アメリカ合衆国や連合王国を中心とする英語使用圏を対象とし、対象国あるいはそのサブ・リージョンに関する専門的で包括的な問題視覚を獲得することを目標とする。担当者の専門分野に応じて、文化、習俗、芸術、歴史、社会、経済、産業、法律、政治など多様な視点から、対象地域の事情や特性を学ぶ。	
		地域研究 B (アジア)	アジアの各地域に包含される国やサブ・リージョンに関わるテーマに基づいて講義が行われる。その切り口は、文化人類学、民族学、民俗学、歴史学、社会学、文化・芸術・音楽のように、担当者の専門分野に応じて多様である。専門的テーマの視点から対象国・サブ・リージョンの事情と特徴を学び、理解を深める。このように、特定のテーマに則して専門的に学習することによって、対象に関する新しくかつ包括的問題視覚を獲得することを目標とする。なお、本科目は、授業をすべて英語で行う。	
		異文化と歴史 A	本科目は、北アメリカの歴史・文化が通時的に講義される。歴史的出来事や文化的事象を網羅する全体史の講義ではなく、つねに過去と現在の対話の中で、何を知り、理解しなければならないのかという視点にもとづいて、講義のテーマ選択が行われる。通時的理解なくして、特定テーマの内容を正しく理解し、位置づけることはできない。100年、あるいはそれ以上の長期にわたる人類の歴史的・文化的営為を学び、学習者一人ひとりの世界観や文化観の形成に資することを目標とする。	
		異文化と歴史 B	本科目は、イギリスの歴史・文化が通時的に講義される。歴史的出来事や文化的事象を網羅する全体史の講義ではなく、つねに過去と現在の対話の中で、何を知り、理解しなければならないのかという視点にもとづいて、講義のテーマ選択が行われる。通時的理解なくして、特定テーマの内容を正しく理解し、位置づけることはできない。100年、あるいはそれ以上の長期にわたる人類の歴史的・文化的営為を学び、学習者一人ひとりの世界観や文化観の形成に資することを目標とする。	
		国際開発論	本科目では、国際開発の史的展開と現状について理解する。史的展開に関しては、第二次世界大戦後の脱植民地化と国家形成過程を軸に、国際開発の理念と理論の変化を学びつつ、経済成長の光と影、開発独裁と権威主義体制、南北問題や南南問題などについて理解を深める。現状に関しては、貧困問題への取り組みを軸として、食料問題、健康問題、人権問題、環境問題などと開発との関係について議論する。	
		社会学	社会学は、人間の社会生活と人間関係について体系的に探究する学問である。人間の社会生活は複雑で人間が経験するいろいろな分野を含んでいる。社会学は、集団としての人間について、社会と呼ばれる場所で、その規則や期待に沿ってどのように人間が関係を営んでいるのかを探究する。社会学は社会の中で体系化された構造というものを認識する。授業では社会学の基礎概念を包括的学ぶ。社会学が社会を見る方法を社会学的視点と呼ぶ。いろいろな社会学的視点、またアプローチについて、更に、それらがどのように扱われているのかを学ぶ。社会学の基礎概念を紹介し、それらが、社会事情とどうかかわっているのかを探究する。3年生時の留学準備も目的としているので、授業は英語で行い、テキストも英語版を使用する。	
		比較社会論	本科目では、日本、ブラジル、アメリカ社会を比較の対象とする。比較アプローチを用いて各社会を分析する。社会、文化、社会学的視点、一般化、グローバル化、アイデンティティという基礎概念項目を解説する。そして、学生は日本、ブラジル、アメリカ社会に特化した社会事情について学ぶ。その目的は各社会の類似点、相違点などを考察し、各社会の事情を包括的に理解することである。各社会を批判的に考察分析することに焦点を置き、解決策を提案する。広い視野でグローバル化された社会が直面している課題を認識し、自分と違った文化的背景を持った人々と生活を共有できる視野を持つことを目指す。3年生時の留学準備も目的としているので、授業は英語で行い、テキストも英語を使用する。	
		国際機構論	本科目では、国際連合をはじめとする、国際機関の機能と現状について学ぶ。講義概要は次の三点にまとめられる。第一に、国際連合憲章などの主権国家間関係を規律する法的枠組みを把握する。第二に、国際連合をはじめとする国際機関、欧州連合、東南アジア諸国連合などの地域機構や、北大西洋条約機構などの軍事同盟の制度と機能を理解する。第三に、人権問題や環境問題など地球規模の問題を軸に、非政府組織(NGO)や多国籍企業など非国家組織と国際組織との関係についても適宜理解を深める。なお、本科目は、授業をすべて英語で行う。	
比較文化研究	文化とは、それぞれの地域に暮らす人々が共有する生活様式である。したがって、文化の具体例は、音楽、絵画、文学から言語、思想、慣習、道徳、法律、儀礼、祭祀、儀式、さらには人々が用いる技術や道具に至るまで、きわめて多岐にわたる。本科目では、世界の様々な地域の文化形態を通時的・共時的に比較対照するなかで、それぞれの文化の固有性と人間文化の多様性・相対性を理解するとともに、自文化とは異なる文化に関する知識と正しい認識を身につけることで、グローバルな視野をもった国際人になることを目指す。なお、本科目は、授業をすべて英語で行う。			

専門教育科目	専門研究科目	国際労働関係法	<p>社会経済の国際化により、国内企業の海外進出や外資系企業の国内参入、国内労働者の海外勤務に関わる諸問題や国内における外国人労働者雇用に関わる諸問題等、労働関係に関する新しい諸問題が認識されている。関係各国によって労働関係法理の取扱は異なることから、これら諸問題に対して単一法理のみによる検討は十分とはいえない。関係国における法理の中でも、とりわけ大陸法体系と英米法体系における労働関係法理に関しては、様々な点において著しい相違が顕著にみられる。このような観点に基づき、本科目では、日本（前者）とアメリカ（後者）における労働関係法理に焦点を当て、これらを相互に比較検討してその相違点と特徴を明らかにすることにより、「国際的な視野」「多角的視野」から「健全な労働関係」を構築できるための基礎的かつ初歩的な知識と論理構成力を育成することとする。国際労働関係法の講義テーマは多岐にわたるが、当該目的を考えると、特に「働く社会」への入り口（導入）となる「労働条件の設定と変更」に関する比較検討を中心に講義を行うこととする。</p> <p>国際労働関係法は広い意味を包含することから、「英語キャリア基礎力」の習得を目的とした上記の趣旨に基づき、本講義では主として関係国における国内労働関係の比較検討を講義の対象とする。応用的な法理論である、国際公法としての国際労働法（ILO条約等）や、国内法として位置づけられる国際労働関係抵触法（渉外事件等）の学修に至るまでの前段階における基礎知識の教授を行うこととする。</p>	
		航空概論	<p>航空は、1903年ライト兄弟による人類初の飛行成功以来、1世紀余の間に長足の進歩を遂げてきた。航空事業なくして国際間の往来・物流は語ることができないほど、今日航空事業はグローバル世界の形成に必須の産業となっている。民間航空発展の歴史、2国間航空協定を柱とする国際航空の枠組み、国籍要件、安全に関する諸規制、規制緩和・自由化の動向、また航空事業の特性・その内容など、世界の航空界において共通語である英語での語彙、専門用語、語法に関する学習も取り入れながら、航空事業全般にわたる理解の習得を目標とする。更には、日本・世界の航空業界の動向、日本の航空行政の問題点などを考察する。</p>	
		エアポート論	<p>我が国の空港は整備から運営へと大きな転換時期を迎えており、ビジネスとしての空港運営が着目されている。本科目では、空港機能、施設、利用実態等を明らかにした上で、空港整備、管理運営、空港政策、海外の空港事例等、多角的な視点から、空港におけるビジネスの知識を身につける。さらに空港整備を題材として我が国の政府開発援助（ODA）の仕組みと業務実態を解説し、海外におけるODAの役割とその重要性について理解を深める。</p>	
		ホテル学	<p>人間の本能である食欲と睡眠欲を満たすことから始まったホテル産業が、今日は心を癒すことも大きな要素になりつつある。本科目では、ヨーロッパで起源したホテルが、今や全世界に広まった背景を考察し、あらゆる観点からその影響が日本にどのような形で現れているかを検証する。人が移動すると文化も移動するが、ホテルはどのような影響を受けたのか。言語が文化の伝承に必要なツールであったことは明白で、ホテル現場で使用されている語彙、単語、専門用語などを学習し、問題点、課題を洗い出す。また、それらを解決するために何が必要かを学習する。</p>	
		ホスピタリティ	<p>エチケットやマナーが社会生活をする上でのルールであり、また良好な人間関係を保つ上での大事な潤滑油であることは言うまでもない。人と接する際の心得として好感を与えること、迷惑をかけることなどは極めて日常的な心得であることは誰もが認めるところである。本科目では、サービスとは何か、心からの親切なおもてなしを意味するホスピタリティとは何か、上手な話し方、聞き方などコミュニケーション能力の高め方、異文化間のコミュニケーション、エチケットとマナー、美しい日本語・敬語の使い方、更には近年ますます重要性を増しているホスピタリティ・マネジメント、CS（顧客満足）経営の考え方を学ぶ。世界のホスピタリティ産業にて使われている英語の語彙、専門用語、語法についても学ぶ。</p>	
		ツーリズム	<p>「国の光を観る」という意味をもつ観光（ツーリズム）。今日世界では年間8億人以上が国際観光行動をする「大観光時代」である。マストツーリズムは、20世紀後半、交通機関の発達、経済力の向上などを背景に顕在化した特異な社会現象であるといえる。一方、マストツーリズムが環境面への弊害をもたらす点も指摘されており、環境とも調和した「持続可能なツーリズム」が求められるところである。本科目では、ツーリズムの概念、歴史、現状、ツーリズムのもたらす経済効果、日本の観光振興政策、観光資源の保護や環境保全との調和など持続可能なツーリズムの在り方、更にはツーリズムをとりまく関連産業の概要を実際の現場にて使用されている英語の語彙、専門用語、語法に関する学習も取り入れながら理解を深めることとする。</p>	
		海外事情研究 A	<p>本科目は、海外留学先の大学における学修、本学の留学生別科「共同開講科目」などの特別プログラムでの学修を対象として単位認定を行うための科目である。留学先や特別プログラム等における講義・演習内容、授業時間数、成績などを勘案のうえ単位認定を行う。</p>	
		海外事情研究 B	<p>本科目は、海外留学先の大学における学修、本学の留学生別科「共同開講科目」などの特別プログラムでの学修を対象として単位認定を行うための科目である。留学先や特別プログラム等における講義・演習内容、授業時間数、成績などを勘案のうえ単位認定を行う。</p>	
		海外事情研究 C	<p>本科目は、海外留学先の大学における学修、本学の留学生別科「共同開講科目」などの特別プログラムでの学修を対象として単位認定を行うための科目である。留学先や特別プログラム等における講義・演習内容、授業時間数、成績などを勘案のうえ単位認定を行う。</p>	
海外事情研究 D	<p>本科目は、海外留学先の大学における学修、本学の留学生別科「共同開講科目」などの特別プログラムでの学修を対象として単位認定を行うための科目である。留学先や特別プログラム等における講義・演習内容、授業時間数、成績などを勘案のうえ単位認定を行う。</p>			





専門 教育科目 専門 初等 教育科目	教職概論(小)	小学校の教師の条件として、教師の資質能力の向上に向けた研修及び日々の教育実践を通じた指導力の向上について学ぶ。そのため、教師の使命感と児童への深い愛情にもとづいた教育指導観(教育や指導についての考え方)について深く研究を進め、学校組織の一員として児童の教育指導に対する責任ある態度を育成する。また、教育の今日的な課題や、今求められている教師像についても研究する。	
	教育基礎論(小)	本科目は、教育という作用が何であり、またそれは何を目的として行われるか、教育を受けることにどんな意味があるのかを明確にする。その上で、教育がこれまでどのような考え方で行われてきたのか、すなわち、教育観や教育思想の歴史を概観する。その際、重要と思われる一定の教育思想家に焦点を当て教育のあり方を論じる。こうした前提の上に、教育を行うために、どのような内容をどのように組織編成しどのように行うか、また、教育を担う教師はどのような専門性を持ち、また教師としてどうあらなければならないかを論じる。	
	教育心理学(小)	子ども達の成長を考えながら、楽しい学校生活を送ってもらうためには、やはり子ども達の「心」を理解することが大切である。しかし、心のはたらきと言っても、友達の心を思いやることもあれば、しっかりと勉強ができるように脳を働かせることなど、いろいろある。本科目では、子ども達の心の特徴と発達変化について理解すると共に、教師としてどのように働きかけることが望ましいのかを考えていく。また、受講生自身の心について知ってもらうことを通じて、心のはたらきについて理解を深める。	
	教育制度概論(小)	本科目は、教育制度(特に学校教育制度)の基本原則を、歴史的発展、比較考察を踏まえて明らかにし、21世紀における発展・改革の方向やそのあり方について検討するとともに、その社会システム上の位置や意味を明らかにすることを目的とする。同時にこうした制度理念を具体的に学校段階で実施し、学校教育の目的を効果的に実現するために必要な、学校経営に関わる基礎的知識や技法についてあわせて講義する。したがって、講義ではわが国、及び世界主要国における教育制度がどのような社会的経済的背景と経緯で成立してきたか、またそれは現在どのような原理に基づいて組織されているか、さらに今日どのような問題が生じ、どのように改革され、変化しようとしているか、また特にこうした政策理念や目的を学校段階において具体的に実施するためにどのような経営技法が必要か等について論じる。	
	教育課程の意義と編成(小)	教育課程・カリキュラムに関する一般的な理論と実践的知識を踏まえたうえで、小学校教育に特有な教育課程に関する基礎的事項を理解させ、実践的なスキルを習得させることを重視する。そのため、できるだけ具体的な教育課程や指導計画を事例として示し、理解を深め、意欲を高めることができるようにする。内容的には、児童期の発達の特色を踏まえた教育課程編成のあり方や個人差に応じた指導のあり方を考えさせることに配慮する。また、小学校教育が全人教育を理念として行われることから、教科等の相互の関連を考慮したカリキュラムや指導のあり方を考え、生活経験を重視し、体験活動に基づく学習指導のあり方を考えていく。	
	道徳教育の理論と実践(小)	小学校教育における道徳教育と道徳の時間に関する基礎的理解と実践的指導力を育成する授業である。理論的な内容(学校全体で行われる道徳教育の意義や道徳性の構造や発達に関する内容)について解説した上で、具体的実践的な内容(道徳の時間の学習指導案の立案作成や模擬授業の実施)を後半で扱う。指導に当たるための留意点を具体的な事例を通して教授し、担任として道徳の時間の指導ができることを目指す。	
	特別活動の理論と実践(小)	本科目は、特別活動の教育課程における位置、役割、特色や歴史の変遷を踏まえたうえで、特別活動の目標、特質、内容、方法などについて講義する。また、話し合い活動の指導やグループ活動の指導の方法について実践的な実技に関する指導を行い、基本的な技能の習得を図る。	
	教育方法の理論と実践(小)	新学習指導要領に示す「生きる力」の育成のため、児童には、知識や技能とともに思考力・判断力・表現力の育成が求められており、学校現場における、各教科における効果的な指導方法の実践・研究の成果と課題について学ぶ。具体的には、教育カリキュラムづくり、時間割の工夫、指導の形態、学習手法など、各指導法の特性と適用を考察しながら、児童の学習過程にふさわしい方法を見極めていく。 (角野 茂樹/13回) 教育課程の編成の意義、授業の構想と考察、指導者の発問と児童生徒の思考、授業の評価。 (黒田 秀子/2回) 授業におけるICTの活用と効果的な指導。	オムニバス 方式
	生徒指導論(小)	児童の発達心理を踏まえ、児童の自己指導能力を高めるため、学校教育活動全体の中で、どのような教育指導をしていく必要があるのかを学ぶ。具体的には、児童の自主性をはぐくむ活動づくりや児童の悩みに対応する教育相談の在り方、問題行動への対応など、事例研究を通じて深く研究をすすめる、学校で実際に起きている現実の問題に対応できる能力を育成する。	
教育相談(小)	子ども達が学校生活を送る中で、様々な悩みごとを抱くことがある。特に、小学生であれば、自分の気持ちについて上手に表現できないこともある。また、近年、発達障害をもつ子ども達について、どのように支援すれば良いのかを理解することも求められている、さらに、保護者と教師の協力関係も不可欠である。本科目は、教師として子ども達や保護者の心にどうやって向き合えば良いのかを理解する。カウンセリングや心理検査などの専門的な内容も含めて、教師に必要な力を身につける。		



専門 初等 教育 科目	専門 初等 教育 科目	教育実習(小)	教育実習は、3年生時に小学校現場で行う4週間の実習のことである。大学では、事前の指導・演習・事後の指導を行い、学校現場での実習を支援する。学校での実習の内容は、教員からの講話、学級活動、授業参観、教材研究、各教科の指導、研究授業などがあり、実際に児童を目の前にした指導現場の指導の経験を通して、学校の実践を学び、児童への愛情と教育の使命感・責任感を学び、自らの進路を確立するように指導する。	
		教職実践演習(小)	教育実践演習は4年生配当で、学生がこれまでに身に付けた知識・技能が教員として必要な資質能力として育成されているかを確認するためのものである。この学習を通じて自らの課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、定着を図ることにより、教職生活を円滑に進めることができるように指導する。具体的には、学校現場等における課題への対応力や教員の職務について理解し職務を遂行できる資質能力が備わっているかを、具体的な活動を通じて確認し、実践的能力を養う。	
		国語	学習指導要領で規定される小学校「国語」の教育内容を理解し、初等国語教育に必要な基本的知識と実践的な言語運用能力の習得を目指す講義である。「国語」の背景にある国語学、国文学、書道とのつながりを理解し、初等教育から中等、高等教育へ、また社会生活へと連結する国語学習の重要性を認識するよう指導する。国語学、国文学全般にわたる広範囲の学習となるので基本的に講義形式をとるが、作品読解等においてはグループディスカッションを実施する。	
		社会	社会科は、社会生活を広い視野から理解することを通して、公的資質の基礎を養うことをねらいとしている教科である。昭和22年に社会科の教科が誕生して以来、その性格は一貫している。社会科の教科としての歴史的経緯について、国際化等世の中の変化と児童・生徒の変容を踏まえて、小・中・高等学校の社会科学学習指導要領改訂の変遷から社会科の意義、位置付けと役割を調査・研究する。	
		算数	小学校の算数においては、数量と図形についての基礎的な知識と技術を身につけさせるとともに、論理的な思考方法を学ばせることになる。そのため、それぞれの教育内容について日常の事象との係わりに触れ、算数が日常生活と深い係わりを持っていることに気づかせる。また、知識や技能を身につけていく過程において、物事を筋道立てて考えていくことに慣れさせ、数理的な処理の仕方の持つ良さを気づかせることによって実際の生活の中でそれらを生かそうとする態度を育み、その結果、論理的思考方法を身につくようにさせる。	
		理科	小学校理科の指導要領および教科書の内容に即し、小学校理科のすべての学習内容(生命、地球、物質(粒子)、エネルギー)について理解し、とくに実験・観察、ものづくりを中心とした学生自身の主体的な学習活動によって、科学技術や自然の体験を深め、正しく豊かな自然観を養う。とくに科学技術や理科を苦手とする学生に対し、それらを感じる、知ること、考えることの楽しさを伝え、学生自らが苦手意識を克服し、小学生の理科に対する強い興味関心に応えられる能力を養う。	
		生活	生活科は、低学年児童が身近な生活圏を対象とし、具体的な活動を通して主として生活上必要な習慣や技能を身に付け、自立的な生活の基礎を学ぶものであるから、直接体験や具体的な活動を中心に指導できる資質の育成を目指す。前半は、生活科の目標や内容について講義を中心とし、後半は内容の取扱いなどについて演習的な授業を展開する。自立的な生活態度の確立のために、低学年児童には直接体験が重要であることを意識しながら、教科内容に即して教材選択や教材研究できる力をつけたい。	
		音楽	本科目は、感性を高めながら、初等音楽科教育で求められる基本的な知識と技能の習得をめざす。実際の授業においては、知識理解と実際の音楽とがつながり、生きた音楽授業になるよう鑑賞・表現の活動とグループディスカッションを取り入れて実施する。	
		音楽実技演習A	本科目は、学習指導要領音楽編のねらいに基づく歌唱指導法の習得を図る。表現と鑑賞の一体化、「共通事項」を生かした指導法を学び、より豊かな指導力・応用力を身につける。さらに、発声や歌唱表現の技術や理論を身につけ、実践力を培う。	
		音楽実技演習B	本科目は、学習指導要領音楽編のねらいに基づく器楽指導法の習得を図る。表現と鑑賞の一体化、「共通事項」を生かした指導法を学び、より豊かな指導力・応用力を身につける。さらに、演奏法や表現に関する技術や理論を身につけ、実践力を培うとともに、共通教材曲の簡易ピアノ伴奏ができるようする。	
		図画工作	児童の表現するものを理解し、活動を支え、創造の喜びを学習者に味わわせるためには、指導者自らが表現や創造の楽しさや喜びを知っていなくてはならない。この授業では自ら表現・想像することの喜びや楽しさを実感できることを目指す。また、画材や教材についての知識やその活用法についても具体的な知る機会を設ける。具体的には、絵具などを使った表現活動、絵本づくり、ダンボールを使っての立体形成、環境を写し取るカメラ撮影などの諸活動を体験できるようにする。	
		家庭	小学校における家庭科の指導に必要な専門知識や技能を修得する授業である。講義内容の定着を図るために必要に応じて実験や演習的な授業形態を取り入れる。家庭生活と家族(自らの成長と家族、家庭の中の仕事、家族と近隣の人々)食生活(食事の意義・役割、栄養を考えた食事、調理の基礎)、衣生活(衣服の着用と役割、衣服の手入れなど)、住生活(整理・整頓、清掃の仕方、快適な住まい方など)消費生活(計画的な買い物、身近なものの選び方、買い方など)を順に取り扱う。	
体育	本科目では、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育授業を目指して、指導方法の工夫、教材の工夫等について検討し、実践する。各回授業時に課すレポート課題を元に、授業の中で受講生同士の活発な意見交換と、活発な実技実践を促す。			

専門 初等 教育 科目	専門 初等 教育 科目	国語科指導法	本科目は、学習指導要領の定める小学校国語科の全体像を把握した上で、母語教育としての国語科教育の考え方や実践的な学習指導法を学ぶものである。国語科教材を具体的に分析しつつ、授業構想づくりについて学んでいく。また、国語教育が抱える諸問題や要請事項を認識し、それを具体的な指導に生かせるようにする。講義の進行に伴い、実際に学生自らが模擬授業を行い、授業に対する感想と評価を討議しあう。	
		社会科指導法	社会に目を向け、実社会と社会科教育の関係を明確にし、社会科教育の意義について認識を深めるとともに授業づくりの実践を試みる。実際の講義においては、『①小学校社会科学習指導要領の理解（小学校社会科の目標、各学年の目標及び内容、指導計画の作成）』『②授業づくりの方法・技術と理論』『③各分野の学習指導の展開』『④指導計画と学習指導案』『⑤評価の方法』『⑥授業づくりの実践』を重視して展開を図る。	
		算数科指導法	本科目は、学校数学（算数）を的確に教えることができる数学的背景・理論・指導法等の理解及び、それらを活かした教材研究を自分で行えるようになるための基礎的知識と基本的技能の獲得を目指す。学校数学（算数）を的確に指導するためには、数学の系統と子どもの認識を教員が知り、それを活かして教材研究をすることが大切である。授業では、小学校算数科について、方法論を中心に目標論・評価論を含めて概説する。それを踏まえ、算数科の授業設計について具体的な実践をもとに学ぶ。	
		理科指導法	小学校理科の指導要領および教科書の内容に即し、エネルギー、物質（粒子）、生命、地球の領域の個々の単元の指導法について学ぶ。授業は、講義、実験、自然観察、ものづくりなどからなり、理科の基礎的知識や実験観察の技法を学ぶとともに、児童の科学技術に関わる生活感や自然観についての意識の理解を図り、児童の主体的な学習活動を育む授業を創造できる能力を高める。さらに、小学校での実際の授業の見学や研究授業、そして模擬授業を行ない、実践的な授業力を養う。	
		生活科指導法	生活科の目標を内容に即した単元構成や授業づくりができるような実践的な指導技術を身に付けることを主なねらいとする。教材・教具の作成や授業環境の設定、校外学習等での地域・保護者との連携する際の配慮事項などについても学び、指導に際しての基礎的な知識や技能や判断力を確実に習得できることも目指す。生活科は小学校低学年児童が学習する教科であるから、その年齢の児童の発達段階も考慮できるように配慮して指導する。グループワークを取り入れて、模擬授業を体験させる。	
		音楽科指導法	本科目は、音楽科の指導事例を紹介し、授業分析、楽曲のアナリゼを通して基本的な授業構造を理解する。実際の授業では、年間指導計画、題材設定、指導案、本時の展開を作成し、模擬授業を行い実践指導の基礎を培う。さらに、実践例を紹介し、題材や子どもの発達段階にそったワークシートや指導用掲示物の作成を通して実践力を培う。	
		図画工作科指導法	図画工作科の指導に当たり必要となる基礎的な知識や技法の習得を基盤として、授業で取り扱う各種教材を研究し、自らも制作することで内容や素材の扱い方を理解することを目指す。具体的には、絵画表現の基礎と応用、立体表現の基礎の応用、デザイン・工芸の基礎と応用、造形遊びの意義などに取り組み実践的な指導力の獲得をめざし、後半では鑑賞活動を通して美術への橋渡しとする。学習指導案の作成とそれに基づく模擬授業にも取り組むこととする。	
		家庭科指導法	家庭科教育の理念や意義、家庭科の学習内容について理解し、実践的体験的な学習を通して家庭科の授業ができる実践的指導力を育成する。家庭科の学習内容を学習指導要領に基づいて理解することから始め、授業づくりの仕組みや内容について体験的に理解できるように進める。授業を通して児童に衣食住に関する知識や技能を活用する力や身近な生活課題を解決している力をつける指導力の育成を目指す。学習指導案の作成と模擬授業は必修とする。	
		体育科指導法	小学校学習指導要領、特に体育科に関する事項について理解を深めたいうで、体育授業の学習指導案の作成と模擬授業の実践、場面指導、およびそれらの成果に関する討議等を通して、体育授業における実践的指導力を身に付ける。児童の心と体の発達を理解し、小学校教員として必要な体育授業の計画作成、教材研究、授業の雰囲気づくり、学習指導におけるインストラクションやフィードバックなどの工夫等ができるようになることを目指す。	
		学校教育基礎論	本科目の目標は、学校教育の目的や目標を総合的に理解し、教師の役割を自覚するとともに、学校現場で起こる教育課題に対し、適切に対処できる資質・能力の向上を図ることである。はじめに、教育の目的と学校教育の歴史の変遷を解説し、学校教育の社会的な役割とその教育的課題を検討する。次いで、学校制度とその枠組みに注目し、実践の方法を明確にする。最後に、子どもを取り巻く環境の変化から、学校教育推進上の今日的課題や教育改革の動向を概説し、専門職としての教師の資質・向上の必要性を解く。	
グローバル教育論	本科目では、従来の「国際理解教育」の枠にとらわれず、政治・経済・社会・文化・人権・環境、開発教育等の多様な視点に立ち、21世紀の社会で求められるグローバル人材育成の基盤となる小学校教育段階での異文化理解・異文化対応能力や異文化間コミュニケーション能力の育成についての知見を深めるとともに、必要な教育実践力の育成をめざす。そのために、日本のみならず、世界各国・各地域で実践されているグローバル教育を概観するとともに、21世紀の日本の学校教育において求められるグローバル教育のあるべき姿を追求する。			
小学校英語教育実践	本科目は、早期英語教育に係わる言語習得理論に基づく教育実践力を養成することにより、小中高12年間の一貫英語教育を推進することができる人材を養成することである。そのために、第二言語習得理論をはじめとする初等教育段階における英語（外国語）教育の理論的枠組みを習得するとともに、児童の発達段階に応じた最適化された教授・学習方略をワークショップ形式で系統的・重点的に習得する。			

専 門 教 育 科 目	専 門 初 等 教 育 科 目	安全・安心な学校生活の形成	児童を取り巻く危険には、けが、交通事故、ネット・携帯、不審者、地震、火災、水害などがある。その現状をデータ及び実例を踏まえ学校現場の安全教育の成果と課題を把握する。学校教育だけでなく地域社会における児童の安全を確保するため、児童の安全意識を喚起するとともに児童が自ら危険を予測し、回避する能力を育てることが急務である。各学校や自治体の取組みを把握するとともに、具体的なプログラム(エンパワメント)を活用し、体験することを通してその必要性を体得する。その際、学校安全の観点だけでなく、他者とのコミュニケーションの取り方、自己マネジメントなどを、グループエンカウンターやピアサポートの手法を活用し、実践的なスキルと態度を養うことの必要性を学ぶ。さらに、他者や社会の安全に貢献できる資質や態度を育てることの重要性を学ぶ。	
		渡日外国人児童教育	渡日児童の教育上の課題や保護者の願い・不安を把握し、教育上必要な支援を講じていく必要がある。そのため、各学校現場の取組みの現状や課題を把握した上で、日本語指導(学習言語、生活言語)、教科指導、生活指導、母語指導(社会教育を含む)、保護者との連携と支援の実情を理解する。また、生徒指導上の課題に対応するとともに、異文化理解教育及び他者の人権を尊重する教育の実情に学び、グローバルな視野に立った国際理解教育の取組みを考察する。さらに教育行政の施策および取組み支援プログラムの実情に学ぶとともに自治体全体の国際教育に関する施策を調査する。	
		教育史	本科目は、我が国の義務教育が、いかなる背景からどのように成立・発展し、またどのような経過を経て今日に至っているか、その特性や問題の淵源は何か等について、特に比較教育史的な視座を取り入れつつ明らかにする。本講義では、まず西洋および日本の教育史を一通り概観した後、特に明治期以後の日本の義務教育の成立発展について、外国からの影響関係を考察し、当該国の教育史と比較しつつ我が国の特性を明らかにする。またこれを基礎に、我が国の特定の地域教育史、地域における教育関係者のライフヒストリー研究、英語教育成立史などについてもあわせて講義する。	
		教育哲学	教育に関する諸説の理論研究を行う。古代ギリシャ(プラトン・アリストテレスなど)やキリスト教における教育論、古代中国(儒学・老荘思想など)の教育論、西洋近代の多様な教育論、近代日本の教育論などから受講生の関心の高いものを中心に扱う。教育を哲学的視点で考察し、理念的な営みとして教育が展開される必要性について理解が深まるようにする。演習的な学習を積極的に行い、受講生が自分の教育理念を獲得できることを期待する授業である。	
		教育方法学	本科目の目標は教育方法や技術を単にテクニックとして捉えるだけではなく、教育現場において適切かつ効果的に実践できる力量形成の促進を図ることである。はじめに、近代以前の教育方法について概説し、その変遷から教授理論を理解する。次いで、教育方法の対象である授業、学習、カリキュラム、教師の役割に着目し、授業デザインや評価のあり方、授業分析などを考察する。最後に、メディアやテクノロジーを利用した教育の実例を例示し、新しい教育実践の方向と課題を解説する。	
		教育行政学	公教育制度の組織原理を確立するための法制度を体系的に学び、法律に基づく学校教育制度の変遷を理解する。その上に立って、教育内容及び教育の質的水準確保のための学習指導要領の法的根拠や教育公務員の職務を規定する教育法規について、具体的な施策・事例を通して考察する。また、教育行政の仕組みを国と地方の関係、役割・権限などを踏まえ教育委員会が果たすべき役割と求められる学校の自律性について実際の学校教育目標を考察し、現実の課題を把握する。さらに、教育委員会制度の課題として、教育委員の役割や情報公開など今日的課題についても理解するとともに、教育施策を推進するための教育予算の要求と成立の仕組み及び国と地方の役割分担についても、地方分権の観点から考察する。	
		学校・学級マネジメント	学校の教育目標を達成するために、人的・物的条件を整備する学校マネジメントと、それを基盤とする各学年ごとの課題を扱う学年マネジメント、その他、校務分掌、職員会議、PTAなどの意味、習熟度別学級編成、分割学習等の指導体制について理解を深める。また、教育目的の実現に向けて学級を担任する教師の仕事としての学級マネジメント、家庭との連絡をとる学級通信や通知簿、法的規制のある指導要録等学級マネジメントの全体像を把握できるよう展開する。	
		教育法規	教育法規については、職務上、具体的な教職活動に不可欠である。そのために教育の基本的原理に関する法規、学校の体系と編成に関する法規、学校の教育活動に関する法規、子どもの保護と人権に関する法規、教職員の配置と服務に関する法規、教育行政に関する法規の6つを領域別に研究・調査する。諸法規の目的や趣旨を充分理解したことを踏まえ、教員として必要な職責を自覚し、教育実践に生かせるよう講義と演習を通して教育法規の概念を身に付ける。	
		道徳教育実践研究	道徳教育は学校の教育活動全体で行うものであるから、教科や領域での道徳指導のあり方を、教科・領域での学習内容との関連で考察する前半と、小学校において実践された道徳の時間の事例研究を通して道徳の時間の指導法や資料の活用方法を分析的に考察する後半とで構成する。道徳資料の活用研究や提唱されている多様な授業論の教育効果を検証することも取り扱いたい。実際に学校での道徳の授業参観も適宜取り込む。	
		教育心理学研究	様々な専門科目のうち、特に心理学を中心に学びたい学生のための選択科目である。今、学校を取り巻く様々な問題が報じられている。いじめ問題や学校不適応、将来への不安など、たくさんある。このような教育時事をふまえながら、心理学の分野からどのような原因が考えられるのか、あるいは問題解決の考え方があるのかなどを紹介し、受講生と議論をしながら、理解を深める。また、受講生が自分で問題意識を持つことが出来るよう、発表形式も取り入れる。	
教育学演習A	教育学分野のうち、教育臨床心理学に関する高度で専門的な演習形式の授業である。「生徒指導提要(文部科学省)」にも示されているとおり、校務分掌等で臨床臨床に関わる高度な知識や技能を他の専門職と共に運用することが求められる。この授業では、カウンセリングや心理検査、心理療法等について具体的に学び、さらに児童相談所心理判定職や精神科医など、学校及び教育と関連性のある他の専門職を招き、議論を通じて現代の子ども達の心の問題について考究する。			

専門 教育科目	専門 初等 教育科目	教育学演習 B	教育学分野のうち、教育臨床心理学に関する現代的な課題について、学生自らテーマを選び、研究に取り組み、それをもとに教員と学生達による議論を通じてより高度な知見を得るためのゼミナール形式の授業である。現代の子どもの心の問題は多岐にわたり、いじめやキレる現象、心身の障害や疾患と教育的支援、国際化の時代における異文化間の偏見抑止と相互理解など、考究すべき課題は多い。高度な知見や技能をもとに、開発的あるいは解決的な志向で教育学分野に貢献する力を養う。	
		教育学演習 C	教育学分野のうち教育哲学の領域についてゼミナール形式で展開する授業である。教育活動は明確な理念を持って展開する必要がある、とくに学校教育では指導者がそれを持つことは極めて重要である。自らの教育理念を確立するために、近現代の教育に関する思想の学修を基盤にして、学校教育に関する中教審答申等や社会的な要請を検討しながら現代的な教育課題を学ぶことになる。同時に、その中で教職に就く意欲を高めることを期待して授業展開する。	
		教育学演習 D	教育学分野のうち、主に道徳教育分野についてゼミナール形式で展開する授業である。道徳教育は学校の教育活動全体で行われるものであるから、教科・領域での道徳教育の在り方を検討することや道徳の時間の具体的な授業の構成（学習指導案の作成）に共同して取り組む。また、近隣の小学校での道徳授業の参観や優れた実践をされている指導者を招き具体的な指導の在り方に触れる機会も持ちたい。	
教養 教育科目	スペイン語	本科目は、スペイン語初級文法の習得とスペイン・ラテンアメリカの文化を知ること为目标とする。文法事項として、名詞の性・数、主語と述語動詞の人称一致、直接目的格人称代名詞、間接目的格人称代名詞、再帰代名詞直説法現在までを学ぶ。		
	中国語	本科目は、中国語の簡単な日常会話に必要な運用能力を習得し、中国の文化などを知ること为目标とする。中国語表記法としてローマ字表記方法を学び、日常会話の練習を行い、自己紹介や学生生活を説明できるように練習を積み重ねる。簡単な日常会話練習の教材を用い、約400～500の単語、約40の文法項目を学び、目標は約300～800字で学生生活や自己紹介を中国語で出来ることを目指す。また、日本と中国の文化・歴史・経済・政治・民俗に対する理解を深める。		
	フランス語	本科目は、フランス語の基礎的なコミュニケーション能力の習得と実用フランス語技能検定試験5級程度の知識を身につけることを目標とする。500語程度の語彙を習得し、コミュニケーション能力として、発音、語彙、文法、会話表現をバランスよく学ぶ。挨拶や呼びかけに始まり、自己紹介などをできるように練習を行う。		
	イタリア語	本科目は、初級程度のイタリア語の運用能力を身につけることを目標とする。イタリア語の仕組みを理解するために、動詞の変化、名詞・形容詞の語尾変化、人称代名詞の用法を中心に、徹底的な基礎訓練を繰り返す。また、規則を覚え理解するという地道な作業の傍ら、絶えず「なぜ」という積極的な問いかけを通して、彼我の発想の違いや、円滑なコミュニケーションのあり方にも目を向ける。		
	ハンガール	本科目は、初級程度のハンガールの運用能力の習得と朝鮮半島の文化や社会の理解を目標とする。文字と発音に始まり、助詞や動詞を中心とした初級文法を習得する。また、朝鮮半島の文化や社会に関する理解を深めると同時に、言語の文化的、社会的側面にも注目し、言語学習の意義を考察する。		
	哲学	哲学とは、論理的に再構成することで意味内容と問題点の明確な認識に資する複雑な事象に潜在化する様々な基本原理を探求する学問であるとともに、そのような思索で認知される個人や集団の人間関係・社会生活・人生観を貫く基本理念そのものをも指し、この基本理念である哲学の認識は個人や集団そのものやそれらを取り巻く事象へのより深い理解を可能なものとする。このような観点から本科目では、特に近世・近代日本の商取引などに関連する哲学・思想を明らかにすることで、その哲学の背景となっている日本的な職業観・企業倫理についての理解を目指し、さらにそれらが現在直面している様々な問題について考察する。		
	心理学	心理学は人間の心と行動を科学的に探究する学問である。本科目では人間の理解に必要な基礎的心理学（感覚・知覚・記憶・情報処理・学習・思考・言語など）と、実際の生活場面での心理学（臨床心理学・社会心理学・対人コミュニケーションなど）について学ぶ。講義においては過去の心理学研究の紹介だけでなく、具体的な問題の体験を通して“こころ”とは何かについても考える。心理学の基本的な知識を習得することで、科学的なものの見方、個人及び個人と社会・環境との関わりの中での“こころ”と行動の理解を目指す。		
	芸術史	芸術作品を成り立たせているのは造形言語であるという立場から芸術史の講義が行われる。造形言語は形と色という時空を越えた価値を持っているが、一方で作品が作られた特定の時代と地域に密着して意味を獲得する。これらの性質に配慮しつつ、具体的作品を見て、その作品に関する情報（主題の解説、作品制作の歴史的背景、作品への評価、美術史上の位置づけ）を踏まえて分析が行われ、作品を意味づけている社会的あるいは理論的枠組みが教授される。その際、単に時代順に作品を並べて検討が行われるのではなく、他者観やジェンダーといった現在重要視されている概念を軸として、それに関連する古代ギリシャから20世紀ポストモダニズムまでの作品に関して講義が行われる。眼に見える具体的なものの分析から、眼には見えない抽象的な理論の把握へと進み、異文化の理解に至ることを目標とする。		

教養教育科目	人権問題論	人権問題は現代人にとって、必須の学習課題となっている。そして、その範囲も近年大きな広がりを持ち、性差別、人種差別、障害者差別、部落差別、民族差別などに加えて、児童労働、環境問題と差別、戦争と人権など多様である。本科目は、こういった差別の実態を知り、差別の克服について考える科目であり、その中で、一人の人間としての生きる道を考え、また国際的な視点と人類の未来のための道を模索する。授業ではビデオ教材を用いて、日本のみならず世界のさまざまな地域に見られる差別の現実を学んでいく。	
	憲法	本科目は、日本国憲法に関する基礎的な法解釈論を習得すること、リーガルマインド、法的思考力、客観的思考力を養うことを目標とする。「基本的人権」に関する講義が中心となるが、各人権内容の概説にとどまらず、判例や裁判例を用いることにより判例法による理論の構築を目指す。初等中等教育に関する憲法問題についても学ぶ。	
	環境科学	環境科学にはこれが唯一つと言う正解はない。関係者が話し合っただけで正解に近い答えを導き出すのが環境科学の特徴である。そこで、本科目では、環境問題に関わる様々な交渉や駆引きができる能力を身につけることを目標とし、「地球とその環境科学」という観点から、主にエネルギー問題と地球環境問題との関係を考える。さらに本科目を通して、必要な自然科学の知識や考え方を身につける。	
	スポーツ健康科学	本科目では、テニス、バスケットボールなどの実技種目を教材として、積極的に健康づくりに挑戦するとともに、その理論と実践の融合をはかることによって基礎体力を向上させ、身体運動のメカニズムを学ぶ。	
	情報機器実習	現在スタンダードであるOSソフト『Windows』を用い、将来のあらゆるコンピュータ利用につながる基本操作を身につけ、情報化社会に対応しうる情報処理法について幅広く学習を行う。また、記憶媒体・ファイル操作・周辺機器等を理解し、効率的な操作方法を体得する。春学期は、タッチタイピング練習によってキーボード入力スピードと正確さを繰り返しトレーニングし、それをベースにワープロソフト（Word）を習得する。また、インターネットの利用、メールの作成、プレゼンテーションソフト（Power Point）などについても触れる。秋学期は、表計算ソフト（Excel）を使用し、表・グラフの作成、データベースの活用方法を習得する。段階的に難易度の高い課題をこなしつつ、学生一人一人の自主性を必要とする演習内容へと展開し、応用力を身につける。レポート作成に役立つ技能から、就職後に役立つITビジネス技能の習得を目指す。	
	総合科目 A	本科目では、人文科学や社会科学、自然科学といった学問分野を横断的・学際的に取り扱う。特定の学問的な分類に収めず、各担当教員の専門分野を中心に講義が行われる。ユニークな科目も存在し、そのような科目を包含して、「総合科目」と称する。	
	総合科目 B	本科目では、人文科学や社会科学、自然科学といった学問分野を横断的・学際的に取り扱う。特定の学問的な分類に収めず、各担当教員の専門分野を中心に講義が行われる。ユニークな科目も存在し、そのような科目を包含して、「総合科目」と称する。	
	総合科目 C	本科目では、人文科学や社会科学、自然科学といった学問分野を横断的・学際的に取り扱う。特定の学問的な分類に収めず、各担当教員の専門分野を中心に講義が行われる。ユニークな科目も存在し、そのような科目を包含して、「総合科目」と称する。	
	総合科目 D	本科目では、人文科学や社会科学、自然科学といった学問分野を横断的・学際的に取り扱う。特定の学問的な分類に収めず、各担当教員の専門分野を中心に講義が行われる。ユニークな科目も存在し、そのような科目を包含して、「総合科目」と称する。	
	総合実習 A (インターンシップ)	インターンシップでは、主体的・自律的に日常的に学校で起こりうるさまざまな教育課題に対する課題設定や課題解決能力を育成するため、小学校をはじめ各種教育機関やなどでのフィールドワーク及び課題解決学習に取り組む。教科・領域や特別活動、総合的な学習の時間、特別支援教育の指導のみならず、遅刻指導、清掃指導、給食指導や課外での学習支援活動など多様な教育課題に積極的に取り組み、教職に対する強い情熱と使命感を養う。事前・事後の指導を充実し定期的に報告会を開催する。	
総合実習 B (インターンシップ)	総合実習Aで培った小学校教育に関する基本的な理解や教職に求められるスキルを、より実践的な場面で発展的に活用できるように教職に関する実践知を体系化するとともに、今日的な教育課題に対応できるような応用的な職能スキルを重点的に育成する。また、小中一貫教育、中高一貫教育を含めた初等中等教育の全体像を把握できるようにし、日本の学校教育における課題認識を深めながら、小学校教育に求められる社会的使命を把握できるようにする。		
総合実習 C (ボランティア)	本科目は、海外での活動を含め本学が認めるボランティア活動において、社会的な経験を重ねることによって人格形成を養うことを目的とする。その活動時間数が60時間以上120時間未満のものを対象とし、活動内容、ボランティア活動団体などからの報告書、学生が大学に提出するレポートなどをもとに単位を認定する科目である。		

教養教育科目	総合実習 D (ボランティア)	本科目は、海外での活動を含め本学が認めるボランティア活動において、社会的な経験を重ねることによって人格形成を養うことを目的とする。その活動時間数が60時間以上120時間未満のものを対象とし、活動内容、ボランティア活動団体などからの報告書、学生が大学に提出するレポートなどをもとに単位を認定する科目である。	
	海外フィールド・スタディ A	本科目は、海外留学先の大学において所定の授業以外に行った特別の学習や実習活動の成果に対して、学習・実習内容、時間数、評価・成績などを勘案のうえ単位を認定する科目である。	
	海外フィールド・スタディ B	本科目は、海外留学先の大学において所定の授業以外に行った特別の学習や実習活動の成果に対して、学習・実習内容、時間数、評価・成績などを勘案のうえ単位を認定する科目である。	

授業科目の概要				
(英語キャリア学部英語キャリア学科)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
資格取得に関する科目	教職に関する科目	教職概論	本科目では、教職の意義・教員養成と採用・教員の研修・教員の職務と専門性等について総合的に学習する。新しい時代における教育の基本的な考え方を学ぶとともに、教員に求められる資質・能力、教員としての業務、専門性等についての基礎的な知識について講義を行う。本講義を通じて教職について理解を深め、教育基本法の改正、学習指導要領の改訂など変化の激しい時代、これからの教育を担う者として、ふさわしい資質・能力を身につけることを目標とする。	
		教育基礎論	本科目では、学校教育を中心にすえ、教育の本質、教育の目的、教育内容や教育方法などについて基礎理論を学び、教育に関する歴史的経緯や思想的背景についても取り上げ、教育の今日的課題と関連づけながら考察を深める。激動する社会、変容する子どもの状況を直視し、教育の「不易」と「流行」の両面を踏まえ、受講者自らの確かな教育観を身につける。そのため、必要な基礎的教養を深めるとともに、複雑多岐にわたる今日の教育事象を考察するための基本的視座を確立する。また、教育課程を中心に学校教育に関する基礎的知識の理解に努める。	
		教育心理学	本科目では、教育の対象となる児童・生徒の心の理解と教育実践のための指導法を探究する学問であるが、ひいては生涯にわたる人間理解を求める「生き方の心理学」である。本講義は人間を理解し、より良い方向に導くために必要な基礎的知識・方法を身につけることを目標とする。人間理解のために必要な知識として、基礎的領域では記憶・学習・動機づけ・発達、分析手法を含むパーソナリティ・創造性・知能、そして問題行動の理解につながる不適応行動等について詳説する。その後、教育実践に必要な集団心理の要件及び指導法を説明する。	
		教育制度概論	本科目では、我が国の教育制度の歴史、現在の教育制度の課題や改善策等について理解を深め、学校教育制度に関する様々な問題について、各自が自分の意見をまとめ口頭及び文書で発表する力を身に付けることを目標とする。教育改革が急展開している今日、学校教育に係る政策がどのような意味を持つのか知らなければ、生徒の教育をつかさどる立場にある教員としての職責を果たすことができない。そこで、教育制度の基本的な事項と最近の教育改革の内容を講義する。	
		英語科教育法Ⅰ	英語科の授業を自信をもって行えるように、基礎的な理論と指導技術を指導する。我が国の学校における英語教育の伝統を体験的に検証しながら、学習指導要領に示されている教科の目標を実現するための「教員としての考え方」と、指導を成功させるために必要な理論学習と実践方法・技術をグループ活動を中心にして模擬授業の交え相互啓発的に学ぶ。「教授法」を真に活かすために必要な、優れた英語運用能力を育成するために受講者の英語を使ったディスカッションやスピーチの能力育成を行う。	
		英語科教育法Ⅱ	我が国の学校における英語教育の伝統を深く検証し、学習指導要領に示されている教科の目標を実現するための「教員としての考え方」と、指導を成功させるために必要な理論学習と実践方法・技術をグループ活動・発表を中心にして、模擬授業も交え相互啓発的に学ぶ。課題発見型の授業を行う中で、理解を深める。教科教育法の学びを実地に活用できるよう、優れた英語運用能力を育成するために受講者の英語を使ったディスカッションやプレゼンテーション等の能力育成の徹底を期す。	
		道徳教育の理論と実践	教育基本法では、「豊かな情操と道徳心を培う」、「自律の精神を養う」や「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し」など道徳教育にかかわる「教育の目標」が掲げられている。現行の中学校学習指導要領では、道徳教育は道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであることを明確にし、取り扱う新たな内容としては「いろいろなもの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもち」、「多くの人々の善意や支えにより、…現在の自分があることに感謝し」などがあげられている。このような具体的な道徳的な価値を生徒に理解させ、よりよく生きるための道徳的実践力を生徒に身につけさせるための教師としての指導力の基本を学ぶ。	
		特別活動の理論と実践	教科外活動の中心である特別活動の目標は「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」(中学校の学習指導要領から。高等学校もほぼ同じ)とある。つまり、特別活動は望ましい集団活動を通して個人的な資質の育成をはじめ、多様な人間関係を構築する能力・態度、集団や社会の一員としての自覚のもとに所属集団や社会の充実・向上・発展に努める態度、人間としての生き方を探求し自己を生かす能力や態度などの育成をめざすものであり、特別活動を中心とする教科外活動の役割はますます重要なものとなってきている。本講義では、学級(ホームルーム)活動、生徒会活動、学校行事について、具体的な事例をもとに自分の実践として考え作りあげることによって、実践的な指導力が身につくように講義を進める。	
		教育方法の理論と実践	本科目では、教材探し、教材づくりの方法や教育機器及びメディアの活用について実践を行う。同時に学習指導要領の趣旨を徹底できるよう、教育実習を視野に入れ、「授業」を行うに当たって必要となる心構え、技術や態度等具体的な場面を想定して実践的な指導力の基礎を身につける。学生間の共同作業、授業計画、教材研究、模擬授業、テストづくりや評価等を繰り返し演習し、必要な資質の向上を図る。	
生徒指導論	生徒指導は学校教育において、教科指導をはじめあらゆる教育活動の根幹をなしている。そのため、近年教育現場では優れた生徒指導力をもつ教師を求めている。本科目では、生徒指導の理論と方法を理解するとともに、今日の学校教育における生徒指導上の主要な課題とそれらの解決の方策について考察する。さらに、教師に必要なコーチングの基礎について学ぶ。			

教職に関する科目	教育相談	学校現場において様々な問題が多発している中で、すべての生徒が意欲的に学校生活を過ごせるよう、また、一人の人間としての人格形成を促し、自己実現に向かって成長していけるよう援助していくことが教師が求められている。本科目では、教育相談の理論とともに、事例研究や、グループ・ワーク、ロール・プレイなどの演習を通してカウンセリングの基礎を学習する。また、「不登校」、「いじめ」や「反社会的問題行動」などについて学校教育現場の状況を把握しつつ、グループで研究発表を行う。	
	教育実習Ⅰ	教育実習Ⅰでは、中学校あるいは高等学校の4週間の教育実習をとおして、修得した知識や理論を応用し、実践力を向上させる。また、教師としての資質向上を図り、教職に対する強い使命感や責任感を育成する。実習校において、教科指導を中心とした実習を行い、授業構成力、教材研究・開発能力や教科指導力の向上を図るとともに、生徒指導、学級指導を含めた学校教育現場での課題解決能力を身に付ける。なお、実習前には教職課程の意義や教育実習の目的・方法・実践について指導し、実習終了後には教育実習の反省会を行うなど、事前事後指導も行う。	
	教育実習Ⅱ	教育実習Ⅱでは、高等学校の2週間の教育実習をとおして、修得した知識や理論を応用し、実践力を向上させる。また、教師としての資質向上を図り、教職に対する強い使命感や責任感を育成する。実習校において、教科指導を中心とした実習を行い、授業構成力、教材研究・開発能力や教科指導力の向上を図るとともに、生徒指導、学級指導を含めた学校教育現場での課題解決能力を身に付ける。なお、実習前には教職課程の意義や教育実習の目的・方法・実践について指導し、実習終了後には教育実習の反省会を行うなど、事前事後指導も行う。	
	教職実践演習(中・高)	多様なプログラムを用意して、教師に必要な資質や能力を高めるだけでなく、学生に新しい時代に求められる教員の在り方について考えさせる。特に、学校教育をめぐる様々な課題を取り上げ、構成的グループ・エンカウンター、アサーション・トレーニング、ロールプレイング、事例研究、フィールドワーク、模擬授業を積極的に取り入れ、討論や発表を重ねて、期待されている教師力を培う。また、可能な限り学校現場での体験活動を取り入れることで、主体的・体験的な授業を展開する。なお、各学生の履修履歴を踏まえ、不足している知識・技能を補う指導を行う。	
日本語教員養成に関する科目	日本語教育実習演習	本科目では、日本語教員養成課程の締めくくりとして、模擬授業を経て、非母語話者である日本語学習者を対象に教育実習を行う。実習では初級・中級クラスのそれぞれのレベルに応じて準備し、教える技術を学ぶ。その際、学習者の母語にも対応できるように各自工夫を凝らす。受講生は全行程で担当者からアドバイスをを受けるとともに、実習を通して自己モニターする能力を養い、次の実践に生かす方法を考える。また、同受講生の授業に参加し、立ち会うことにより互いに切磋琢磨する。全ての実習を終えた後、最後に養成課程のまとめとして「どのような日本語教師になりたいか」についても改めて考える。	
	日本語教育実習	日本語教育実習では、本学が併設している留学生別科において、日本語を母語としない学習者に対して日本語を指導する3週間の教育実習を行う。この実習では、外国語としての日本語教育の授業を研究し、そのティーチングスタイルを身に付けつつ、教壇実習を行い、修得した日本語の知識や理論を応用して実践力を向上させる。また、教師としての資質向上を目指し、授業構成力、教材研究・開発能力や日本語指導力の向上を図り、日本語教育の課題解決能力を身に付ける。	
図書館司書に関する科目	生涯学習概論	高齢化社会の到来に備え、先進諸国の教育システムが、生涯学習あるいは生涯教育という概念を定めてから40数年の歳月が経過した。その間も、わが国の教育水準や人々の知的レベルは高い水準を維持してきたが、高度情報社会の一層の進展は人々により高度な社会生活上の知恵の獲得を求め、人々も多様な情報の利用を求める状況を生み出した。このような社会状況を受けて、本講義は、公共図書館等が生涯学習のシステムを担う社会教育施設として担うべき意義や役割、社会教育施設利用者の主体的な「学びの要求」が自由に発展していくための条件整備や制度について解説する。	
	図書館概論	本科目は、司書資格取得のための導入として、図書館の世界への扉を開くものである。人類の英知が生み出した図書館という社会的文化装置を歴史的・文化的・制度的観点から論じ、その意味・機能を考察する。その際、この科目は、図書館現場が抱える実践上の課題を、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館間等のネットワークと連携、図書館職員の役割と専門性をめぐる状況、知的自由と図書館理念、図書館の今後の課題と展望等に整理して解説する。	
	図書館情報技術論	現代の図書館職員には、コンピュータやインターネットに関する基礎的な情報技術が必要である。そのために、本科目はコンピュータやネットワークの基礎的な知識、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料等について解説するとともに、最新の技術動向にも触れる。また、必要に応じて演習等も行う。	
	図書館制度・経営論	本科目は大きく二部構成になっている。前半は図書館を外側から規定する制度についての説明である。具体的には、図書館に関する法律や、図書館に関連する領域の法律を体系的に解説し、合わせて国や行政の推進する図書館政策を解説する。後半は図書館の内側におけるマネジメントについて講義する。図書館経営の考え方にはじまり、職員や施設等の経営資源、マーケティングとサービス計画、予算の確保、調査と評価、多様化する管理運営形態、更には改革・改善に至る図書館マネジメントの在り方を概観する。	
	図書館サービス概論	本科目は、図書館で利用者に対して行われる基本的なサービスについての意義と理念について理解を図るとともに、資料提供サービス、情報提供サービス、図書館サービスの連携・協力、館種別・利用者別サービス等の各種サービスや図書館サービスに関わる著作権の基本等を解説する	



資格取得に関する科目	図書館司書に関する科目	情報サービス論	図書館における情報サービスの意義を明らかにするとともに、情報サービス業務の全体像を理解する。そのため、情報サービスの歴史的変遷とサービスの構成要素や機能、種類を学ぶとともに、レファレンスサービスや情報検索サービス等のサービス方法、レファレンスブックやデータベース等の情報源、更に利用者教育や発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。	
		児童サービス論	子供達にとって読書の持つ力は限りなく大きい。最近、子供達の「読書離れ」を嘆く声がある。文字は読めても、言葉が伝える物語の世界に入れない子供達を危惧する声もある。子供の読書は大人の読書と本質的に違いを持っている。子供達の未発達な言語力に相応しい読書のあり方を考え、その成長段階に応じて、子供達と本を繋ぐ架け橋としての「児童サービス」について考察する。	
		情報サービス演習A	本科目は、「情報サービス論」で学んだレファレンスサービスを基礎に、レファレンスツールの整備、レファレンスの回答処理手順、レファレンスツールの種類と特性を理解した上で、レファレンス質問のタイプ別に、実際に図書館資料を利用したレファレンスの回答プロセスの組み立て、回答を演習形式で学ぶことにより、将来の図書館員としての実践的な能力を養成する。	
		情報サービス演習B	本科目は、「情報サービス論」で学んだ情報検索サービスを基礎に、レファレンスツールとして有用な各分野の基本的なデータベースやインターネット上の有益なサイトについて、実際の検索手順や検索方法について演習を行うことにより、将来の図書館職員としての実践的な能力を養成する。	
		図書館情報資源概論	今日、図書館活動の基本である情報資源は、印刷資料、非印刷資料、パッケージ型電子資料及びネットワーク情報資源など多様な形態で提供されている。本科目では、各種情報資源の種類・特性などを概観し、歴史、生産、流通、選択、コレクション構築等のプロセスを解説する。また、学問の分野別特性と図書館資料の関連にも言及し、受講者にとって、大学におけるレポート作成や卒業論文執筆などの学習にも役立つ内容を持つものである。	
		情報資源組織論	図書館が収集した情報資源を利用者に提供する際に、利用者が情報資源にアクセスしやすいように、一定の体系にそって情報資源を整理（組織化）することを学習する。情報資源組織化に際して使用する、目録法、分類法、件名法などの手法を講義する。また、本科目では、目録データベースや書誌コントロールなどにも言及しながら、ネットワーク情報資源のメタデータ作成上の理論など、コンピュータとネットワーク時代の図書館に必要な知見をまじえながら解説を行う。	
		情報資源組織演習A	本科目は、「情報資源組織論」で学んだ目録法を基礎に、図書目録に記述される書誌情報、検索語となる標目について理解を深め、「日本目録規則（NCR）」を理解した上で、具体的に目録作業をグループ制の下で実施する。授業は、我が国の書誌ユーティリティである国立情報学研究所のオンライン目録システムであるNACSIS-CATを意識し展開する。また、ネットワーク情報資源のメタデータ作成についても言及する。	
		情報資源組織演習B	本科目は、「情報資源組織論」で学んだ分類法、件名法を基礎に、図書館資料の主題を検討し決定することにはじまり、日本十進分類法（NDC）の構造とその補助表、基本件名標目表（BSH）の構造を理解したあと、具体的に分類作業や件名作業をグループ制の下で実施する。また、本科目は受講生が日常的に図書館を利用する際の、検索行動を効率よく展開する上で有効な知識を形成するものでもある。	
		図書館基礎特論	著作権法は、図書館業務と深い結び付きのある法規である。今日、著作権法は図書館の電子的コンテンツ作成過程、資料収集段階、窓口サービス展開時など、あらゆる局面で業務遂行上参照し、遵守としなければならない法規である。一方、著作権は情報媒体の多様化、情報技術（複製技術）の高度化に伴って、近年、繰り返し議論されている法理でもある。本科目は、著作権法と図書館の関係を詳述し、著作権の最近のトピックスに焦点をあてながら、著作権の現状と近未来の方向について解説するものである。	
		図書館情報資源特論	本科目は学術コミュニケーションの変容と図書館の関係を歴史的に検証し、学術情報流通の現状と図書館の関係を解説する。商業出版社による学術情報の寡占化が引き起こした「雑誌の危機」と電子ジャーナルを検証し、今日、世界の図書館員が学術コミュニケーションを如何に再生しようと努力しているのかを視点に置き、オープンアクセス運動、機関リポジトリの取り組みに言及する。	
資格取得に関する科目	司書教諭に関する科目	図書・図書館史	本科目では、図書をはじめとする各種図書館情報資源の形態、生産、普及、流通等に関し歴史的に概説するとともに、図書館の歴史的発展について解説する。図書館の起源から現在までの発展の流れを概説するとともに、図書や図書館の歴史を、社会的・文化的文脈の中で捉え、各時代において図書館や図書館機能を成り立たせてきた時代背景についても考察する。	
		学校経営と学校図書館	今日の学校教育における学校図書館の役割は、ますます重要になってきている。本科目は、学校図書館の教育的意義や経営など全般的事項について理解を図ることを目的として、学校図書館の理念と教育的意義、教育行政との関連性、司書教諭の任務や学校図書館の経営方法、図書館ネットワーク、学校図書館メディアの構築と管理など、学校図書館に関する全般的、基礎的事項について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回)  (細戸 康治/10回) 学校図書館の理念と教育的意義、教育行政と学校図書館、学校図書館メディアの構築と管理  (北條 秀司/5回) 学校図書館の経営、司書教諭の任務と職務、学校図書館活動	オムニバス方式

資格取得に関する科目	司書教諭に関する科目	学校図書館メディアの構成	高度情報化社会における学校図書館メディアの重要性が高まり、学習へのさらなる有効活用が求められてきている。本科目では、学校図書館メディアについて理解し有効活用することを目的として学校図書館で必要とするメディア（図書・視聴覚資料・コンピュータソフト等）について、種類、特性、学習への応用、収集、保存について概説し、メディアの組織化（分類・目録）について実習等により実務能力の育成を図る。	
		学習指導と学校図書館	学校図書館は子供たちが「自ら学ぶ」ための資料や学習の場を提供する学習・情報センターであり、司書教諭の役割は、ますます重要になってきている。本科目では、学習指導における学校図書館情報活用について理解を図ることを目的として、持続可能な社会のための学びと学校図書館の役割、学校教育カリキュラムと学校図書館、主体的学習と情報活用能力の育成、情報活用能力の育成の計画と方法、学校図書館における情報サービス、教職員に対する支援と働きかけについて学ぶ。 (オムニバス方式／全15回)  (細戸 康治／11回) 教育課程の展開と学校図書館、自己教育力とメディア活用能力の育成  (北條 秀司／4回) 学校図書館における情報サービス、教員に対する支援と働きかけ	オムニバス方式
		読書と豊かな人間性	読書が人間の各発達段階において重要な役割を果たすとともに、教育課程全般を通じて重要な要素であることを理解する。その上で、学校図書館の独自の機能である児童や生徒に読書の楽しみや習慣を身につけさせ、読書能力を向上させる方法を学ぶ。更に、司書教諭の役割である読書材の選択方法や提供についても考察する。	
		情報メディアの活用	教育現場でメディア専門職として働く司書教諭の役割について理解した上で、現場で活用される各種情報メディアに関する基礎知識、種類、特性、課題等及び教育用コンテンツの活用法について学ぶ。更に、情報技術の進展に伴うインターネットによる情報活用法、情報発信について学ぶとともに、その功罪についても理解を深める。	